

HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン : 5.10

インストールとアップグレード

ドキュメントリリース日 : 16 September 2008
ソフトウェアリリース日 : September 2008



法的制限事項

著作権

(c) Copyright 1994-2008 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。

FAR 12.211 および 12.212 準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

保証

HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HP は本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

商標

- Adobe®, Adobe logo®, Acrobat® and Acrobat Logo® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, Windows Mobile® and Windows Vista® are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered trademark of Oracle Corporation and/or its affiliates.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

はじめに	9
このガイドの対象ユーザ	9
このガイドの使用目的	9
Asset Managerデータの保全性に関する注意	10
1. Asset Managerのコンポーネント	13
2. サポートされる動作環境	15
サポートされるオペレーティングシステム	15
Windowsでの必要最小限の動作環境	16
Windowsで推奨される動作環境	16
サポートされるDBMS	17
3. 旧バージョンからアップグレードする	19
Asset Manager 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0xのアップグレード - 概要	20
アップグレード操作の詳細例	22
4. Windowsでのインストールとアンインストール (Asset Manager Webを除く)	35
Asset Managerインストール前の注意事項	35

手動インストール (GUI)	38
手動アンインストール (GUI)	39
自動インストールとアンインストール (コマンドライン)	40

5. Windowsでの設定 (Asset Manager Webを除く) 47

DB2データベース用のCコンパイラ	47
Oracle DLL	48
メッセージシステム	49
Asset Manager Automated Process Manager	50
Crystal Reports	52
HP Connect-Itとの統合	52
Get-Answers	53
デモ用データベース	53

6. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル 55

使用可能な「.ini」 および 「.cfg」 ファイル	55
「.ini」 ファイルを変更する	58

7. Asset Manager Webのインストール、設定、削除、および更新 63

Asset Manager Webアーキテクチャ	63
実用例	65
Asset Manager Webのインストール	68
Asset Manager Webの設定	97
Internet Explorerを使ったAsset Managerへのアクセス	97
Asset Manager Webの最適化	98
Asset Manager Webのアンインストール	100
問題	101
Asset Manager Webの更新	101

8. パフォーマンスの問題 103

索引 105

図の一覧表

3.1. 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0.xデータベースのアップグレード - 概要	22
7.1. Asset Manager Webアーキテクチャ	64

表の一覧表

3.1. Asset Managerバージョン番号別のアップグレードタイプ	19
4.1. MSDE - インストールされたMSDEインスタンスに対するインストール設定	37
6.1. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル - 主なファイルの一覧	55
6.2. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル - 主なファイルの場所	56
6.3. [OPTION] セクション	59
6.4. [SQL] セクション	60
6.5. [OPTION] セクション	60
6.6. [OPTION] セクション	61
6.7. 「amdb.ini」 ファイルのエントリ	61

はじめに

このガイドの対象ユーザ

このガイドはAsset Manager 5.10を使用するすべての企業を対象としています。
このガイドは、特に以下のことを実行するエンジニアを対象としています。

- Asset ManagerとAsset Manager Webをはじめてインストールする
- 旧バージョンのAsset Managerをアップグレードする

このガイドの使用目的

このガイドでは、以下を説明しています。

- Asset Managerを構成するプログラム
- Asset Managerの動作環境
- 旧バージョンのAsset Managerのアップグレード方法
- Asset ManagerとAsset Manager Webをはじめてインストールする方法
- Asset Managerの設定方法
- Asset Managerの性能の最適化

重要項目:

このガイドで説明されている手順には忠実に従ってください。

CD-ROMを挿入すると表示される画面で、インストールするコンポーネントを選択します。

このガイドでは、次のプログラムのインストール方法のみが説明されています。

- Asset Managerのインストール
- Microsoft MSDEのインストール

他のプログラムのインストール方法については、各プログラムの付属ガイドを参照してください。

Asset Managerデータの保全性に関する注意

Asset Managerは多彩な機能を搭載しています。この多機能は、複雑な構造のデータベースを使用することにより実現されています。

- データベースは大量のテーブル、フィールド、リンク、およびインデックスで構成されます。
- 一部の中間テーブルは、グラフィカルインタフェースには表示されません。
- 一部のリンク、フィールドとインデックスは、ソフトウェアにより自動的に作成、削除または変更されます。
- ユーザはテーブル、フィールド、リンクやインデックスを追加作成することができます。

データベースの保全性を保護しつつその内容を変更する場合、以下のアプリケーションの内の1つを使用する必要があります。

- Windowsクライアント
- Asset Manager API
- Asset Manager Import Tool
- Webクライアント
- HP Softwareゲートウェイ
- HP Connect-It
- Asset Manager Automated Process Manager
- Asset Manager Web Service

データベースの保全性を保護しつつその構造を変更する場合、Asset Manager Application Designerを使用する必要があります。

 **警告:**

データベースの内容や構造を、ソフトウェア用にあらかじめ用意された方法以外の手段で変更しないでください。不適切な方法で変更すると、データベースが破損し、以下の問題が発生する可能性があります。

- データやリンクが勝手に削除または変更される
- 架空のリンクやレコードが作成される
- 重大なエラーメッセージが発生する

1 Asset Managerのコンポーネント

Asset Managerのパッケージ

プログラム名	プログラムの インタフェース	Windowsのサポート
<i>Asset Manager</i> データベースへのアクセス用Windowsインタフェース（「注意：」を参照）	グラフィック	はい
<i>Asset Manager</i> データベースへのアクセス用Webインタフェース（「注意：」を参照）	グラフィック	はい
<i>Asset Manager Export Tool</i>	グラフィック	はい
	コマンドライン	はい
<i>Asset Manager Import Tool</i>	コマンドライン	はい
<i>Asset Manager Automated Process Manager</i>	グラフィック	はい
	コマンドライン	いいえ
<i>Asset Manager Application Designer</i>	グラフィック	はい
	コマンドライン	はい
<i>Asset Manager API</i>	非グラフィック	はい
<i>Asset Manager Web Service</i>	非グラフィック	はい

プログラム名	プログラムの インタフェ ース	Windowsのサポート
<i>Asset Manager Script Analyzer</i>	グラフィック	はい

 **注意:**

WindowsおよびWebインタフェースからAsset Managerデータベースに接続すると、次のモジュールにアクセスできます。

- ポートフォリオ
- 契約
- ソフトウェアライセンス
- ソフトウェアの配布
- ファイナンス
- 経費付替え
- 調達
- ケーブル
- バーコードによる棚卸
- 管理
- 照合更新

各モジュールへのアクセスの可否は、Asset Manager付属のライセンスファイル「license.cfg」の内容に応じて異なります。

周辺プログラム

以下のソフトウェアはAsset Managerに統合可能です。

- HP Connect-It
- Crystal Reports
- HP Device and Dependency Mapping

2 サポートされる動作環境

サポートされるオペレーティングシステム

Asset Managerクライアントプログラム

Asset Managerクライアントプログラムは次のオペレーティングシステムをサポートします。

- Windows

サポートされているオペレーティングシステムのバージョンについては、互換性一覧 (www.hp.com/go/hpsoftwaresupport) を参照してください。

Asset Managerデータベースサーバ

サーバは、DBMSにサポートされている全オペレーティングシステムとハードウェアプラットフォーム上で機能します。

DBMSにサポートされているオペレーティングシステムとハードウェアプラットフォームのリストは、DBMSのドキュメントを参照してください。

Windowsでの必要最小限の動作環境

Asset Manager Automated Process Manager以外の全プログラム

環境	Windows 95、98、ME	Windows 2000、XP、Server 2003
CPU	Pentium II 300	Pentium II 400
RAM	32 MB	256 MB
ディスク容量 (*)	1 GB (全パッケージをインストール)	1GB (全パッケージをインストール)

(*) Asset Managerにインストールされるファイル用に約350 MBのディスク容量が必要です (本番データベースとクライアントデータベースのレイヤを除く)。

Asset Manager Automated Process Manager

環境	Windows NT 4、2000、XP Professional Edition
CPU	Pentium III 500
RAM	Asset Manager Automated Process Manager用に256 MB
ディスク容量	500 MB

Windowsで推奨される動作環境

Asset Manager Automated Process Manager以外の全プログラム

環境	Windows 95、98とME	Windows 2000、XPとServer 2003
CPU	Pentium II 400	Pentium III 500
RAM	96 MB	512 MB
ディスク容量 (*)	2 GB (全パッケージをインストール)	2GB (全パッケージをインストール)

(*) Asset Managerにインストールされるファイル用に約350 MBのディスク容量が必要です (本番データベースとクライアントデータベースのレイヤを除く)。

Asset Manager Automated Process Manager

環境	Windows NT 4、2000とXP Professional Edition
CPU	Pentium III 1 GHz
RAM	Asset Manager Automated Process Manager用に1 GB
ディスク容量	1 GB

環境	Windows NT 4、2000とXP Professional Edition
ネットワーク	DBMSサーバとの高速リンク（例：Ethernet 100 Mbps、Gigabit）と最短待ち時間（<5 ms）

サポートされるDBMS

Asset Managerデータベースでは、以下のDBMSがサポートされています。

- Microsoft SQL Server

 **注意:**

MSDEバージョンもサポートされますが、デモ用データベースの使用に限られます。

- Oracle Database Server

- IBM DB2 UDB

サポートされているDBMSのバージョン（サーバ、クライアント、ネットワークプロトコル、ドライバなど）については互換性一覧

(www.hp.com/go/hpsoftwaresupport) を参照してください。

 **警告:**

動作環境の表に記載されているバージョンまたはサービスパック以外（以降も含む）のDBMSでAsset Managerを使用すると、正常に機能しない場合があります。

 **警告:**

それぞれのベンダがサポートしなくなったバージョンまたはサービスパックでAsset Managerを使用すると、正常に機能しない場合があります。

3 旧バージョンからアップグレードする

アップグレードタイプのは、インストール済みのアプリケーションのバージョンによって異なります。

表 3.1. Asset Managerバージョン番号別のアップグレードタイプ

アップグレードするバージョンの番号	実施する操作のタイプ	参考ドキュメント
バージョン4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0x	通常の場合では、 簡易アップグレード で十分です。	この章、「Asset Manager 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0xのアップグレード-概要 [献 20]」のセクション
	簡易アップグレードが失敗した場合は、 簡易マイグレーション を実施する必要があります。	マイグレーションガイド
バージョン4.1.x以前	完全マイグレーション	マイグレーションガイド

Asset Manager 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0xのアップグレード - 概要

アップグレードの理由

- 標準データベース構造（テーブル、フィールド、リンク、およびインデックス）が変更されました。
- 新しい機能が追加されました。

アップグレード手順の構成

次の場合、アップグレードが必要です。

- 旧フォーマット本番データベースから5.10フォーマットのデータベースに
- Asset Managerプログラムをバージョン5.10に

必須要素

アップグレード手順は比較的簡単であり、次のことが必要です。

- Asset Managerの知識（インストール、管理）
- 準備
- 技術的能力：データベース管理
- メソッド

アップグレード手順

- 1 アップグレード対象コンピュータを準備します。
 - ▶ アップグレード対象コンピュータを準備する [献 22]
- 2 旧フォーマットの本番データベースを準備します。
 - 1 旧フォーマットの本番データベースの健全性を検証します（オプション）。
 - ▶ 旧フォーマットの本番データベースの整合性を検証する [献 24]
 - 2 必要に応じて、旧フォーマットの本番データベースに調整を加えます。
 - ▶ 旧フォーマットの本番データベースを手動により調整する [献 25]
- 3 旧フォーマットの本番データベースのコピーに対して、アップグレードをテストします。
 - 1 旧フォーマットの本番データベースをコピーします (🔥)。
 - ▶ 旧フォーマットの本番データベースをコピーする [献 26]

旧フォーマットの本番データベースのコピーに対してアップグレードをテストしているときに、ユーザは旧フォーマットの本番データベースの使用を続行することができます。

- 2 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードします (2)。
 - ▶ 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする [献 27]

アップグレードプログラムにエラーメッセージが表示されない場合は、この章に記載されているようにアップグレードを続行できます。

アップグレードプログラムにエラーメッセージが表示される場合は、『マイグレーション』ガイドに記載されているように簡略マイグレーション手順を実施する必要があります。

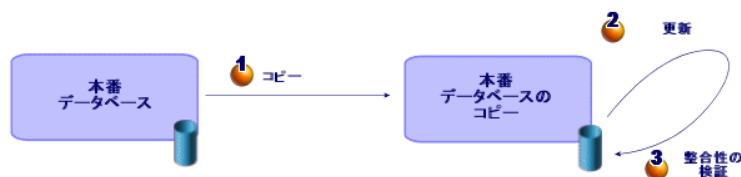
この場合、この章に記載されるアップグレード手順は適用できません。
- 3 5.10フォーマットの本番データベースのコピーの整合性を検証します (3)。
 - ▶ 5.10フォーマットの本番データベースの整合性を検証する [献 28]

プログラムで問題が発生した場合は、必要に応じて旧フォーマットの本番データベースに修正を加えて、最新バージョンの旧フォーマットの本番データベースのコピーに対してテストを再開します。

エラーメッセージがない場合は、次のステップに進みます。
- 4 新しい旧フォーマットの本番データベースのコピーを使用して最終アップグレードを実施します。
 - 1 旧フォーマットの本番データベースをブロックします。
 - ▶ 旧フォーマットの本番データベースをブロックする [献 28]
 - 2 旧フォーマットの本番データベースのコピーを作成します (1)。
 - ▶ 旧フォーマットの本番データベースをコピーする [献 26]
 - 3 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードします (2)。
 - ▶ 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする [献 27]
 - 4 5.10フォーマットの本番データベースのコピーの整合性を検証します (3)。
 - ▶ 5.10フォーマットの本番データベースの整合性を検証する [献 28]
 - 5 5.10フォーマットの本番データベースのコピーを最終処理するために必要な変更を加えます。
 - ▶ 5.10フォーマットの本番データベースのコピーの最終処理 [献 29]
- 5 Asset Managerプログラムをアップグレードします。
 - ▶ Asset Managerプログラムを更新する [献 31]

- 6 必要に応じて、Asset Managerデータベースにアクセスする外部プログラムのアップグレードを実施します。
 - ▶ Asset Managerデータベースにアクセスする外部プログラムをアップグレードする [献 33]
 - 7 5.10フォーマットの本番データベースでAsset Manager Automated Process Managerを開始します。
 - 8 5.10フォーマットの本番データベースにアクセスする外部プログラムを再起動します。
 - 9 データベースが使用可能であることをユーザに通知します。
- 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0.xデータベースをアップグレードする主な手順は次のとおりです。

図 3.1. 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0.xデータベースのアップグレード - 概要



アップグレード操作の詳細例

ここでは、上記の概要に記載したステップを詳細に説明します。

警告:

既存のインストールと対象インストールとの間で必要なアップグレードに対応する手順のみを使用する必要があります。

アップグレード対象コンピュータを準備する

旧フォーマットの本番データベースをアップグレードする前に、適切なアップグレード対象コンピュータを準備する必要があります。

本章では、アップグレード対象コンピュータにインストールする必要があるものをすべて説明します。

旧フォーマットの本番データベースに対応するバージョンの**Asset Manager**をインストールする

以下の旧フォーマットの本番データベースへアクセスするために必要です。

- **本番データベース**
- **本番データベースのコピー**

基本モジュールをインストールします。

旧フォーマットの本番データベースにアクセスできることを確認する

次の操作を行うために、データベースへのアクセス権限が必要です。

- アップグレード用に旧フォーマットの本番データベースを準備します。
- シミュレート用に旧フォーマットの本番データベースのコピーを作成し、アップグレードを実施します。

Asset Manager 5.10をインストールする

以下のコンポーネントをインストールします。

- Asset Managerクライアント
- Asset Manager Application Designer
- ドキュメント
- マイグレーション
- データキット
- Asset Manager Export Tool

変換速度を左右する要素

- DBMSの性能
- Asset Manager Application Designerのコンピュータと、旧フォーマットデータベースのコンピュータ間のデータ転送速度。
- Asset Manager Application Designerと、旧フォーマットデータベースがインストールされているコンピュータの性能（上記の要素ほど大切ではありません）。

ヒント:

旧フォーマットの本番データベースのサイズが大きい場合、Asset Manager Application Designerがインストールされているクライアントコンピュータをネットワーク上で旧フォーマットのデータベースサーバにできる限り近づけなければなりません（例えばWANを経由しない、など）。特に長いフィールドやバイナリデータを含むテーブルでは注意が必要です（例：**amComment**、**amlmage**）。

旧フォーマットの本番データベースの整合性を検証する

1

重要項目:

旧フォーマットの本番データベースのバックアップコピーを作成します。

- まず第一に旧バージョンのAsset Manager Application Designerを使って、整合性を検証します。
 - 旧バージョンのAsset Manager Application Designerを起動します。
 - 旧フォーマットの本番データベースに接続します（[ファイル/開く]メニューから[既存のデータベースを開く]オプション）。
 - データベースの診断画面を表示します（[アクション/データベースの診断/修復]メニュー）。
 - テーブルのリストで[(すべてのテーブル)]を選択します。
 - ログファイルの名前とパスを指定します。
 - [レコードの整合性のチェック]オプションのみを選択します。
 - [修復]オプションを選択します。
 - [実行]をクリックします。
 - 実行画面のメッセージを確認します。
 - 必要に応じて、ログファイルの内容を確認します。

3

警告:

旧フォーマットの本番データベースのDBMSがDB2である場合、以下の検証作業を行う必要はありません。

2番目の検証を5.10フォーマットのAsset Manager Application Designerに実施します。

- Asset Manager Application Designer 5.10を起動します。
- 旧フォーマットの本番データベースに接続します（[ファイル/開く]メニューから[既存のデータベースを開く]オプション）。

注意:

Asset Manager Application Designer 5.10は、旧フォーマットのデータベースと後方互換性があります。

- データベースの診断画面を表示します（[アクション/データベースの診断/修復]メニュー）。
- テーブルのリストで[(すべてのテーブル)]を選択します。
- ログファイルの名前とパスを指定します。
- [レコードの整合性のチェック]オプションを除くすべての検証オプションを選択します。

- 7 [修復] オプションを選択します。
- 8 [実行] をクリックします。
- 9 実行画面のメッセージを確認します。
- 10 必要に応じて、ログファイルの内容を確認します。

解析/修復プログラムの詳細については、『管理』ガイドの「データベースの診断/修復」の章を参照してください。

旧フォーマットの本番データベースを手動により調整する

旧フォーマットの本番データベースのアップグレードを正確に実施するために、最初に特定データ項目を変更する必要があります。

[amCounter] テーブルを更新する

このセクションの内容は、ストアードプロシージャ *up_GetCounterVal* を変更したユーザを対象としています。このプロシージャは、次の技術文書の指示に従って

[amCounter] テーブルを管理します。

- Microsoft SQL Server : TN317171736
- Oracle Database Server : TN12516652

上記の技術文書の指示どおりに変更を実行した場合、*up_GetCounterVal* ストアドプロシージャは、[amCounter] テーブルの一部のレコードを更新できなくなります。

旧フォーマットの本番データベースをアップグレードする前に、まず次のことを行います。

- 1 アップグレード後に同じように *up_GetCounterVal* ストアドプロシージャを変更したい場合は、そのコピーを作成します。
- 2 [amCounter] テーブルから別のテーブルへ派生されたカウンタを手動で変更します。
- 3 *up_GetCounterVal* ストアドプロシージャを、初期状態に戻します。

調達モジュールとワークフローモジュール

アップグレード前に実行中のプロセス（部分的に受領した発注、返却予定資産、現在のワークフローなど）の数を減らすことをお勧めします。

警告:

また、アップグレード後に問題が発生した場合に参照できるように、旧フォーマットの本番データベースのバックアップコピーを作成することをお勧めします。

旧フォーマットの本番データベースをコピーする

従来のコピーの問題点

DBMSのツールを使って旧フォーマットの本番データベースをコピーする場合、**Asset Manager Application Designer**以外のツールで実行された以下の要素の追加、変更または削除もコピーされるため、旧フォーマットの本番データベースのコピーは元のデータベースと同一になります。

- インデックス
- トリガ
- ストアドプロシージャ
- ビュー

これらの構造の変更は、アップグレードプログラムで対応することができません。

このため旧フォーマットの本番データベースの変換前に、構造の変更事項を取り消す必要があります。

ここで述べるように、DBMSツールを使用してコピーを作成し、構造の変更を取り消すことをお勧めします。

注意:

旧フォーマットの本番データベースのコピーは、アップグレード対象コンピュータからアクセスできる必要があります。

データベースのコピーの作成方法については、DBMSの付属ドキュメントを参照してください。

DBMSツールによる旧フォーマットの本番データベースのコピー

- 1 DBMSツールで旧フォーマットの本番データベースをコピーします。
作成されたコピーは、元の旧フォーマットの本番データベースと全く同一です。
- 2 以下の要素に実行された全変更事項を取り消します。
 - インデックス
 - トリガ
 - ストアドプロシージャ
 - ビュー
- 3 旧フォーマットのシミュレーション用データベースへのAsset Managerの接続を作成します。

旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする

旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードするには：

- 1 Asset Manager Application Designerバージョン5.10を起動します。
- 2 *Admin*ログインで旧フォーマットのデータベースのコピーに接続します（〔ファイル／開く／既存のデータベースを開く〕）。

重要項目:

Asset Managerの接続の詳細画面では、次の点に注意します。

- [所有者] フィールドに値を入力してはなりません。
- [ユーザ] フィールドは、データベーステーブルの所有者であるユーザ（すべてのデータベースオブジェクト作成権限があるユーザ）を参照しなければなりません。
- Microsoft SQL Serverでは、テーブルの所有者が*dbo*である場合、接続ログインは、*dbo.<テーブル>*の形でデフォルトのテーブルを作成しなければなりません（特にログイン*sa*の場合）。

- 3 [マイグレーション／データベースを更新] を選択します。

注意:

旧フォーマットの本番データベースがマルチリンガルである場合（▶『管理』ガイド、「*Asset Manager*データベースの作成、変更、削除」の章、「*Asset Manager*クライアント言語」のセクション）、ウィザードのいずれかのページによって旧フォーマットの本番データベースの追加言語に加えられたカスタマイズを継承させることができます。これには、Asset Managerバージョン5.10が各追加言語バージョンで使用可能であり、変換に使用するコンピュータにこれらの言語のAsset Managerをインストールすることが必要です。

フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプを除いて、すべてのマルチリンガル要素がカスタマイズを継承します。

言語Xへのカスタマイズを自動的に継承するには、その言語のAsset Managerが使用可能である必要があります。

既に使用可能になっている言語でアップグレードを実行することもできますが、言語Xに対するカスタマイズを継承することはできません。その言語に対してAsset Manager 5.10が使用可能になったときに、言語Xを5.10フォーマットの本番データベースに挿入します。旧フォーマットの本番データベースに行ったカスタマイズは、手動で伝達する必要があります。

- 4 ウィザードの指示に従います。

ヒント:

[入力タイプ] パラメータが [コメント] であるリンクをアップグレードするには、相当時間がかかります（大規模データベースの場合で数時間が必要です）。

この段階でメッセージが表示されないため、アップグレードプロセスが実行中であるかどうか疑問に思うかもしれません。

これを確認するには、アップグレード対象コンピュータまたはデータベースサーバのシステムアクティビティ（CPUまたはI/Oレベル）を調査します。

- 5 変換ログファイル「sdu.log」を参照します。

5.10フォーマットの本番データベースの整合性を検証する

- 1 Asset Manager Application Designer 5.10を起動します。
- 2 5.10フォーマットの本番データベースのコピーに接続します（[ファイル/開く]、[既存のデータベースを開く] オプション）。
- 3 データベースの診断画面を表示します（[アクション/データベースの診断/修復] メニュー）。
- 4 テーブルのリストで [(すべてのテーブル)] を選択します。
- 5 ログファイルの名前とパスを指定します。
- 6 [レコードの整合性のチェック] オプションを除くすべての検証オプションを選択します。
- 7 [解析のみ] オプションを選択します。
- 8 [実行] をクリックします。
- 9 実行画面のメッセージを確認します。
- 10 必要に応じて、ログファイルの内容を確認します。

解析/修復プログラムの詳細については、『管理』ガイドの「データベースの診断/修復」の章を参照してください。

旧フォーマットの本番データベースをブロックする

「旧フォーマットの本番データベースをブロックする」とは、アップグレードの最中に変更が加えられないために旧フォーマットの本番データベースを使用できないようにすることです（この場合、変更については考慮されません）。

以下の操作を行います。

- 1 すべてのユーザの旧フォーマットの本番データベースへの接続を解除します。
- 2 以下のプログラムを終了します。
 - Asset Manager Automated Process Manager
 - Asset Manager API

- 旧フォーマットの本番データベースにアクセスする外部プログラム
- 3 旧フォーマットの本番データベースへのアクセスをブロックします。

5.10フォーマットの本番データベースのコピーの最終処理

アップグレード正常終了の確認

アップグレード処理が正常に行われたことを確認することをお勧めします。
確認するには次の方法があります。

- 5.10フォーマットのデータベースのコピーを目視確認して明らかにおかしい点がないか探します。
- いくつかのテーブルのレコード数をアップグレード前後で比較します。

ストアードプロシージャ *up_GetCounterVal* の変更

このセクションの内容は、旧フォーマットの本番データベースで *up_GetCounterVal* ストアドプロシージャを変更したユーザを対象としています。

旧フォーマットの本番データベースをアップグレードする前に、次の作業を実行します。

- 1 **[amCounter]** テーブルから別のテーブルへ派生されたカウンタを手動で変更します。
- 2 *up_GetCounterVal* ストアドプロシージャを、初期状態に戻します。

以下の技術文書の指示に従って、*up_GetCounterVal* ストアドプロシージャを新規に調整します。

- Microsoft SQL Server : TN317171736
- Oracle Database Server : TN12516652

フィールドのヘルプ (オプション)

フィールド (とリンク) のヘルプは [フィールドのヘルプ] (amHelp) テーブルに格納されています。

アップグレード処理でこのテーブルの内容は変更されません。

フィールドのヘルプをアップグレードしたい場合は、『マイグレーション』ガイドの「段階を追ってマイグレーションを実行する - 最終変換 (マイグレーションデータベース)」の章、「手順20 - 5.10フォーマットのマイグレーションデータベースを最終確認する」のセクション、「すべてのバージョンの旧フォーマットの本番データベースに関する最終確認」、「フィールドのヘルプ」を参照してください。

Asset Manager 5.10 付属の標準レポートをインポートする

[サンプルデータ] に含まれるレポートを、5.10フォーマットの本番データベースのコピーにインポートするには：

- 1 Asset Manager Application Designer を起動します。

- 2 [ファイル／開く] メニューを選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く（新規データベースの作成）] オプションを選択します。
- 4 Asset Manager 5.10のインストール先フォルダの「config」サブフォルダの「5.10 gbbase.xml」ファイルを選択します。
- 5 [アクション／データベースの作成] を選択します。
- 6 次のようにウィザードのページに入力します（ウィザードページを [次へ] と [戻る] で移動します）。

[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ：

フィールド	値
データベース	5.10フォーマットの本番データベースのコピーを選択します。
作成 高度な作成オプションを使用	専門分野データをインポート このオプションは選択しません。

[作成パラメータ] ページ：

フィールド	値
パスワード	管理者のパスワードを入力します。
	<p>注意:</p> <p>Asset Managerデータベース管理者は、[部署（姓）]（Name）フィールドが「Admin」に設定されている[部署と従業員]（amEmplDept）テーブルのレコードです。</p> <p>データベース接続ログインが[ユーザ名]（UserLogin）フィールドに保存されています。管理者名は「Admin」です。</p> <p>パスワードが[パスワード] フィールド（LoginPassword）に保存されています。</p>

[インポートするデータ] ページ：

フィールド	値
使用可能データ エラー発生時にインポートを中止	[Crystal Reports] オプションを選択します。 このオプションは、問題が発生したときにインポートを中止する場合に選択します。

フィールド	値
ログファイル	エラーや警告などすべてのインポート操作を記録するファイルの完全名。

- 7 ウィザードを使用して定義されたオプションを実行します（[完了] ボタン）。

ユーザ権限、アクセス制限および機能権限

データベース構造に、新規テーブル、フィールド、リンクが追加されたので、ユーザプロファイルのユーザ権限、アクセス制限および機能権限を適用する必要があります。

既存の権限と制限に新しいテーブル、フィールド、リンクを追加します。必要があれば新しい権限および制限を作成します。

Asset Managerプログラムを更新する

管理用コンピュータとクライアントコンピュータで、全てのAsset Managerプログラムを更新する必要があります。

Asset Managerと共に使用する任意のプログラムのバージョンが、Asset Manager 5.10と互換性があるかどうかを確認します。必要に応じて、これらのプログラムのアップグレードを実行します。

Asset Managerプログラムの一覧と、Asset Managerと共に使用するプログラムの一覧について：▶ [Asset Managerのコンポーネント](#) [献 13]

Asset Manager 5.10と互換性のあるプログラムのバージョンについては、HPカスタマサポートサイトを参照してください。

ヒント:

互換性の詳細については、「▶ [Windowsでの設定（Asset Manager Webを除く）](#) [献 47]」の章を参照してください。

Asset Manager Automated Process Managerを管理用コンピュータにインストールする

Asset Manager Automated Process Managerは、Asset Managerデータベースにおける自動処理タスクを実行します。Serverが起動されていないと、Asset Managerは正しく作動しません。

このため、次の操作を行う必要があります。

- 1 Asset Manager Automated Process Managerをクライアントコンピュータにインストールします。
- 2 Asset Manager Automated Process Managerを適切に設定します。
- 3 Asset Manager Automated Process Managerを完全に実行します。

Asset Manager Automated Process Managerの機能の詳細については、『管理』ガイドの「Asset Manager Automated Process Manager」の章を参照してください。

5.10フォーマットの本番データベースのコピーにあるAsset Managerキャッシュを削除する

5.10フォーマットの本番データベースのコピーに接続するためにキャッシュを使用している場合は、削除することをお勧めします。

キャッシュに関する詳細は、『はじめに』ガイドの「参考情報」の章、「接続」の「Asset Managerのパフォーマンス」のセクションを参照してください。

Asset Managerプログラムを更新する

プログラムをアップグレードするには

- 1 前のバージョンのAsset Managerをアンインストールします。

ヒント:

Asset Manager 5.10を変換用コンピュータにインストールする場合、当面の間は以前のバージョンのAsset Managerをアンインストールしないようにしてください。

アンインストールの手順（Asset Managerを削除するための保護対策、手順と方法）については、削除する対象のAsset Managerバージョンの『インストールとアップグレード』ガイドを参照してください。

- 2 Asset Manager 5.10をインストールします。

インストール手順に関する情報（注意事項、方法、Asset Managerインストールの各種方法）については、このガイドの他の章を参照してください。

注意:

Asset Manager 5.10インストールプログラムでは、Asset Manager 4.3.2以前のインストール済みバージョンが検索されません。

Asset Managerが正常に起動することを確認する

Asset Manager 5.10の起動時に問題が発生した場合は、ユーザサポートに連絡してください。

古い接続を削除して、新しい接続を作成する

この目的は、5.10フォーマットの本番データベースのコピーにユーザが確実に接続することです。

『はじめに』ガイドの「参考情報」の章、「接続」のセクションを参照してください。

古い接続を変更することも可能です。

必要に応じて、接続用にAsset Managerキャッシュを作成します。

Asset Managerデータベースにアクセスする外部プログラムをアップグレードする

Asset Manager Web

Asset Manager Webを5.10バージョンに更新します。

Asset Manager Webの標準ページのみを使用する場合、この操作のみです。これにより、Asset Manager Webの新しい標準ページを使えるようになります。

追加Webページを作成した場合、または標準Webページをカスタマイズした場合は、以下の手順に従います。

- 1 追加ページまたはカスタムページを保存します。
- 2 Asset Manager Webを5.10バージョンに更新します。
- 3 各Webページをテストし適応させます。

Get-It

Get-It関数で開発されたWebアプリケーションをAsset Manager 5.10データベースで機能させるには：

- 1 お使いのバージョンのGet-ItがAsset Manager 5.10互換性一覧（HPカスタマサポートWebサイト）にリストされていることを確認します。
- 2 必要に応じてGet-Itを更新します。
- 3 カスタマイズした各Webページをテストし適応させます。

Get-Resources

Get-ResourcesをAsset Manager 5.10データベースと連携させるには、

- 1 お使いのGet-ResourcesがAsset Manager 5.10互換性一覧（HPカスタマサポートWebサイト）にリストされていることを確認します。
- 2 必要に応じてGet-Resourcesを更新します。

Get-Resourcesの標準ページのみを使用していた場合は、この操作で十分です。これにより、Get-Resourcesの新しい標準ページを使用するようになります。

追加Webページを作成した場合、または標準Webページをカスタマイズした場合は、以下の手順に従います。

- 1 追加ページまたはカスタムページを保存します。
- 2 必要に応じてGet-Resourcesを更新します。
- 3 カスタマイズした各Webページをテストし適応させます。

HP Connect-Itシナリオ

HP Connect-Itを使って5.10フォーマットの本番データベースのコピーにアクセスするには、Asset Manager 5.10付属のHP Connect-Itのバージョンを使用しなければなりません。

HP Connect-Itの既製シナリオを使用していた場合、移行後は新しい既製シナリオを使用します。

独自のシナリオを作成した場合

- 1 既製シナリオ以外の旧シナリオを保存します。
- 2 HP Connect-Itをアップグレードします。
- 3 HP Connect-Itでシナリオを1つずつ開きます。
- 4 各シナリオで、以下の操作を行います。
 - 1 シナリオを開く際にHP Connect-Itで警告メッセージが表示される場合は、メッセージを確認します。
 - 2 警告メッセージに応じてシナリオを訂正します。
 - 3 テスト用データを使ってシナリオを実行します。
 - 4 テスト中に問題が発生する場合は、問題点を訂正します。

バージョン5.10システムデータをインポートする

- 1 Asset Managerを起動します。
- 2 ブロックされた旧フォーマットの本番データベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。
- 3 [ファイル/インポート]メニューを選択してから、[スクリプトの実行]オプションを選択します。
- 4 スクリプト「upgrade.lst」を選択します（通常は、フォルダ「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\migration\fromxxx」にあります。ここで、xxxは旧フォーマットの本番データベースのバージョンです）。
- 5 [インポート]をクリックします。
- 6 [閉じる]をクリックします。
- 7 この操作によって取得するデータベースを5.10フォーマットの本番データベースと呼びます。

4 Windowsでのインストールとアンインストール（Asset Manager Webを除く）

この章ではAsset Managerを初めてインストールする方法を説明します。

Asset Managerインストール前の注意事項

アンチウイルスプログラムをオフにする

Asset Managerのインストール中にアンチウイルスプログラムを起動していると、レジストリへのアクセスが遮断されるため、インストールプログラムが正常に機能しない場合があります。

このため、Asset Managerのインストール前にアンチウイルスプログラムを終了することをお勧めします。

Oracleクライアント層のインストール

Oracleクライアント層（SQL*NetまたはNet 8）を不適切にインストールすると、アクセント記号のついた文字がAsset Managerでは適切に処理されない可能性があります。この問題は、例えばアクセント記号付きの文字を含むレコードの挿入時に発生します。このレコードを再選択すると、テキストは正常に表示されません。この問題を解決するには、SQL*NetまたはNet 8の設定を確認してください。

Crystal Reportsのインストールの有無

Asset Managerのインストールを実行する前に、Crystal Reportsランタイム（限定バージョン）をインストールする必要があるかどうかを決定します。

8.5か9か10のフルバージョンがインストールされている場合、Crystal Reports 10 ランタイムをインストールしないでください。

注意:

Crystal Reportsランタイムのインストールは、Asset Managerのインストールプログラムと共に実行されます。

MSDEのインストールの有無

MSDEの用途

MSDEは、Microsoft SQL Serverの限定かつフリーなバージョンです。

制限の例：

- SQL最適化ツールが提供されません。
- データベースへの同時接続数が制限されています。

Asset ManagerではMSDEをデモ用データベースに使用します。

Asset ManagerインストールCD-ROMを使用すると、必要に応じてMSDEをインストールできます。

注意:

制限があるため、MSDEは本番データベースとしてサポートされません。

非互換性

既にMS SQL ServerがインストールされているワークステーションにMSDEをインストールしないでください。

MSDEのインストール

MSDEがユーザの環境に既にインストールされている場合、そのバージョンがサポートされていればデモ用データベースにMSDEからアクセスすることができます。

サポートされているDBMSのバージョン（サーバ、クライアント、ネットワークプロトコル、ドライバなど）については互換性一覧

（www.hp.com/go/hpsoftwaresupport）を参照してください。

Asset Manager付属のMSDEのインスタンスをインストールするには：

- 1 インストール用CD-ROMを挿入します。

- 2 CD-ROMを挿入してもインストールプログラムのウィンドウが自動的に表示されない場合は、
 - 1 Windowsエクスプローラを実行します。
 - 2 インストール用CD-ROMを選択します。
 - 3 CD-ROMのルートディレクトリを選択します。
 - 4 「autorun.exe」プログラムを実行します。
 - 3 オプション **[Microsoft MSDEのインストール]** を選択します。
 - 4 インストールプログラムの指示に従います。
- MSDEのインスタンスは、次のパラメータでインストールされます。

表 4.1. MSDE - インストールされたMSDEインスタンスに対するインストール設定

パラメータ	値
インスタンスの名前	ASSETMANAGER
管理権限を持つユーザ	sa
ユーザsaに関連付けられているパスワード	saampassword
セキュリティシステム	SQL
ネットワークプロトコル	有効

MSDEサービスを開始する

デモ用データベースをインストールする予定であれば、Asset Managerのインストールを開始する前に、使用するMSDE Windowsサービスを開始できることを確認します。

Asset Manager付属のMSDEサービスはMSSQL\$ASSETMANAGERという名前です。

インストールプログラムからは開始されません。

ただし、次回Windowsを再起動したときに自動的に起動するように設定されます。

Windows 2000、XP、Server 2003へのインストール

Windowsの2000かXPかServer 2003を使用している場合、コンピュータにソフトウェアをインストールするには管理者権限が必要になります。管理者権限でログインしないと、インストールプログラムはレジストリを変更できません。

クライアント/サーバ型インストール

- 1 DBMSをサーバとクライアントコンピュータにインストールします。
- 2 クライアントとサーバ間の通信をテストします。

- 3 各クライアントコンピュータにAsset Managerをインストールします。

 **重要項目:**

Asset Managerをインストールする際に、SQL Server 2005 DBMS を使用している場合は、添付のデータベース手順でWindows 認証オプションを選択します。これは、ログインとパスワードでの認証方法（たとえば「sa」ログイン）を選択すると、データベースの添付が妨げられるというSQL Server 2005の問題に対する回避策です。

クライアントコンピュータへ迅速にインストールする

「amdb.ini」ファイルには、【ファイル／接続の管理】メニューにある接続のリストが含まれています。

このファイルの場所：▶ 「.ini」および「.cfg」ファイル [献 55]

これらのオプションを各クライアントコンピュータのGUIで定義する代わりに、一台のマシンでオプションを定義した後「amdb.ini」ファイルを各クライアントコンピュータにコピーします。

複数言語でのAsset Managerのインストール

Asset Manager Windowsクライアントは、同一のコンピュータに複数の言語でインストールすることができます。

これを行う場合は、言語バージョンごとに別々のフォルダにインストールする必要があります。

デフォルトでは、インストールバージョンは言語バージョンに関わらず同一のインストールフォルダを使用します。

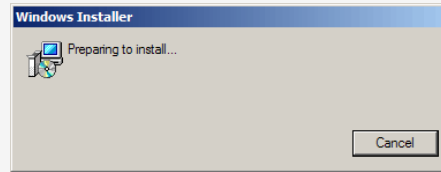
手動インストール (GUI)

- 1 インストール用CD-ROMを挿入します。
- 2 CD-ROMを挿入してもインストールプログラムのウィンドウが自動的に表示されない場合は、
 - 1 Windowsエクスプローラを実行します。
 - 2 インストール用CD-ROMを選択します。
 - 3 CD-ROMのルートディレクトリを選択します。
 - 4 「autorun.exe」プログラムを実行します。
- 3 オプション **【Asset Manager 5.10のインストール】** を選択します。
- 4 インストールプログラムの指示に従います。



警告:

インストール時に、次の種類のポップアップウィンドウが数回表示されます。



これは正常な動作です。

[キャンセル] をクリックしないでください。

キーボードの **[Enter]** を押しただけで [キャンセル] ボタンが選択されるので、インストールの実行中には他のアプリケーションを操作しないことをお勧めします。ポップアップウィンドウが表示されたことに気付かずに **[Enter]** を押してしまう可能性があります。

手動アンインストール (GUI)

Asset Managerをアンインストールする前に

デモ用データベースをインストールした場合

デモ用データベースは、アンインストール時に削除されます。

デモ用データベースを残しておきたい場合は、コピーを作成しておく必要があります。

▶デモ用データベースのコピーの作成方法については、MSDEのドキュメントを参照してください。

Webクライアントをインストールした場合

Asset Managerをアンインストールする前に、アンインストールの対象となるファイルをアンロックするために、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceが使用しているアプリケーションサーバを停止する必要があります。

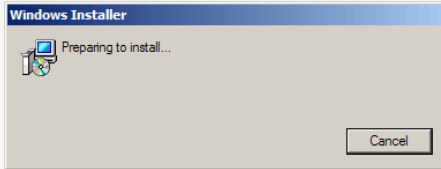
Asset Managerをアンインストールする

Asset Managerをマシンから完全に削除するには、Windowsコントロールパネルの **[プログラムの追加と削除]** を使用します。



警告:

アンインストール時に、次のようなポップアップウィンドウが数回表示されます。



これは正常な動作です。

[キャンセル] をクリックしないでください。

キーボードの [Enter] を押しただけで [キャンセル] ボタンが選択されるので、アンインストールの実行中には他のアプリケーションを操作しないことをお勧めします。ポップアップウィンドウが表示されたことに気付かずに [Enter] を押してしまう可能性があります。

アンインストールプログラムは以下の操作を実行します。

- インストールされた全ファイルとプログラムグループを削除します。
- Asset Managerのインストールプログラムが加えた変更事項を、設定ファイルから削除します。
- レジストリを更新します。

自動インストールとアンインストール（コマンドライン）

このセクションでは、次のポイントを説明します。

- 概要 [献 40]
- 準備 [献 41]
- 実行 [献 43]
- コマンドラインからアンインストールを実行する [献 45]

概要

コマンドラインのインストールを使用すると、複数のコンピュータに対して Asset Managerのインストールを標準化および自動化することができます。

コマンドラインからインストールを実行するためには、特定のパラメータを定義する必要があります。

Asset Managerインストールパラメータは、「.msi」ファイル内で定義されます。

デフォルトでAsset ManagerインストールCD-ROM上で提供されるファイルは、「AssetManager.msi」という名前です。

「.msi」ファイルの変更は、Orcaという名前のMicrosoftのプログラムによって実行されます。

Orcaは、設定を実行するために使用するコンピュータにインストールする必要があります。

準備

Orcaをインストールする

Orcaをインストールするには：

- 1 Microsoft Internet Explorerを起動します。



警告:

次のページを表示するためには、Microsoft Internet Explorer (c) version 5.0以上が必要です。

- 2 次のURLを表示します。

http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/msi/setup/orca_exe.asp

- 3 指示に従います。

Orcaの使用に関するヘルプの取得

Orcaのドキュメントを表示するには：

- 1 インターネットブラウザを起動します。
- 2 次のURLを表示します。

<http://support.microsoft.com/kb/255905/>

「.msi」ファイルとsetup.exeおよびmsiexec.exeパラメータに関するヘルプを取得する

これらのファイルに関するドキュメントを表示するためには、Microsoft Platform SDKオンラインヘルプを参照してください。

このオンラインヘルプは、Windowsの [スタート/プログラム/**Microsoft Platform SDK XXX / Platform SDK Documentation**] メニューで表示できます。

Asset Managerインストールを設定する

Asset Managerインストールを設定するとは、「AssetManager.msi」ファイルをOrcaで変更することです。

**警告:**

「AssetManager.msi」ファイルの変更はできますが、名前は変更できません。

ここでは、「.msi」ファイルの特定パラメータについてのみ説明します。その他すべてのパラメータについては、「.msi」ファイルのヘルプを参照してください。

- 1 Windows Explorerを起動します。
- 2 Asset Managerインストール元フォルダ（インストールCD-ROM、「am」フォルダ）の内容をハードドライブ（例えばC:\Temp\am\）にコピーします。
- 3 Orcaを起動します。
- 4 「AssetManager.msi」ファイルを開きます（[ファイル/開く]）。これは、CD-ROMの内容をコピーしたフォルダにあります。
- 5 インストールするコンポーネントを設定します。
 - a **[Tables]** 列で「*Feature*」を選択します。
インストールの可能性があるコンポーネントのリストがOrcaによって表示されます。
[Title] 列では、コンポーネントを特定することができます。
[Level] 列では、コンポーネントのインストール方法を管理することができます。
 - b 次に示すように、コンポーネントごとに **[Level]** 列を入力します。

[Level] 列の値	コマンドラインからのインストール動作	「 <i>Typical</i> 」のGUIインストール動作	「 <i>Custom</i> 」のGUIインストール動作
0	インストールされない	インストールされない	使用不可能
1	インストールされる	インストールされる	使用可能でデフォルトで選択される
200	インストールされない	インストールされない	使用可能だがデフォルトで選択されない

- 6 Windowsの**[スタート]**メニュー用に作られるプログラムグループを設定します。
例えばデフォルトでは、Asset Managerは**Start/ Programs/ HP/ Asset Manager 5.10 <言語>/ Client**にインストールされます。
パスを変更するには：
 - a **[Tables]** 列で「*Shortcut*」を選択します。
1行ごとにプログラムグループの各項目が表示されます。
[Name] 列では、項目を特定することができます。

【Directory】列では、項目を作成するプログラムグループを表しています。

それは、プログラムグループのパスを保存する【Directory】テーブルのあるレコードの識別子です。

- b 変更するプログラムグループの識別子を記録しておきます。

例：Asset Managerクライアントは、【Name】列の値「HP|HP Software Asset Manager」によって識別されます。【Directory】列の値は「newfolder2」です。この値を記録しておきます。

- c 【Directory】テーブル内でこれらの識別子をそれぞれ検索します。

- d 【Tables】列で【Directory】を選択します。

- e 【Directory】列のヘッダーをクリックしてソートします。

- f 変更するプログラムグループごとに、【Directory】列でその識別子を選択し、【DefaultDir】列の値を変更します。

この例では、「newfolder2」を検索します。



警告:

ソートは大文字と小文字を区別します。そのため、「newfolder2」はリストの最後にあります。

- 7 設定を保存します（【File/Save】メニュー）。

- 8 終了します（【File/Close】メニュー）。

実行

概要

インストールを開始するには、Asset Manager CD-ROMの「setup.exe」を実行します。

「setup.exe」で使用可能なパラメータは、次のコマンドで表示できます。

```
setup.exe /?
```

パラメータにより初期化ダイアログボックスを非表示にする例を示します。

```
setup.exe /S
```

- 1 「setup.exe」は、Windowsがデフォルトでインストールする「MsiExec.exe」プログラムをインストールまたはアップグレードします。
- 2 「setup.exe」は、Orcaを使ってカスタマイズした「AssetManager.msi」ファイルの設定でインストールを行う「MsiExec.exe」プログラムを始動します。「MsiExec.exe」で使用可能なパラメータは、次のコマンドで表示できます。

MsiExec.exe /?



警告:

このオプションは、*MsiExec* バージョン3以降でのみ使用できます。
これより前のバージョンの場合、「MsiExec.exe」のバージョンに対応したドキュメントを参照してください。

GUIを使わない無人インストールを可能にするパラメータの実行例を次に示します。

MsiExec.exe /qn

パラメータを「setup.exe」によって「MsiExec.exe」に送信するには、パラメータの先頭に以下の文字を付ける必要があります。

/V

無人インストールを可能にするパラメータの実行例は次のとおりです。

setup.exe /V/qn



警告:

/Vの後にコマンドを続ける場合は、必ずスペースなしで/Vに続ける必要があります。

コマンドラインからインストールを実行する

コマンドラインからAsset Managerをインストールするためには、さまざまな方法があります。

このセクションでは次の特徴を持つインストールの例を示します。

- ダイアログボックスを開かずに「setup.exe」を実行する。
 - ユーザ入力、GUIなしで、「msiexec.exe」を実行する。
 - インストールプログラムによるメッセージを「C:\Temp\log.txt」ファイルに保存する。
 - Asset Managerをフォルダ「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx」にインストールする。
- 1 DOSコマンドプロンプトを開きます。
 - 2 「setup.exe」プログラムファイルとカスタマイズ可能な「AssetManager.msi」ファイルがあるAsset Managerインストール元フォルダに移動します。
 - 3 以下のコマンドを実行します。

```
setup.exe /S /V"/qn /I* C:\Temp\log.txt INSTALLDIR="C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\""
```

解説：

- *setup.exe*: 「*msiexec.exe*」のローカルバージョンをテストして必要な場合は更新するために、「*setup.exe*」によってインストールを始動します。

 **注意:**

Asset Managerのインストールでは、バージョン2以上が必要です。

- */S*: 「*setup.exe*」を初期化ダイアログボックスなしで実行します。
- */V*: 後に続くパラメータが「*msiexec.exe*」に送られます。
*/V*の後のコマンドは、全体をダブルクォーテーションマークで囲みます。
- */qn*: 「*msiexec.exe*」をユーザ入力またはGUIなしで実行します。
- */l* C:\Temp\log.txt*: インストールプログラムの大部分のメッセージを「*C:\Temp\log.txt*」ファイルに保存します。
- *INSTALLDIR="C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\"*:
Asset Managerを「*C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx*」フォルダにインストールします。
パスの中の*Program*と*Files*の間にスペースを入れるために、「**」を使用していることに注意してください。

4

 **注意:**

上記のコマンドラインを実行すると、ただちにコマンドプロンプトが表示されます。インストールが完了しても通知はされません。

ログファイル（上記の例では *C:\Temp\log.txt*）の最後の行に「*Installation complete*」と書かれていれば、インストールは完了しています。

コマンドラインからアンインストールを実行する

コマンドラインからAsset Managerをアンインストールするには、さまざまな方法があります。

次の例をお勧めします。

- 1 Asset Managerアンインストールに相当するレジストリキー番号を特定します。
 - a レジストリエディタ「*regedit.exe*」を起動します（Windowsの【スタート／ファイル名を指定して実行】メニュー）。
 - b 「*HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall*」を展開します。
 - c Asset Managerに対応するキーを検索します。中括弧で囲まれたキーの詳細を表示し（左側のパネル）、【**DisplayName**】フィールドの値を確認します（右側のパネル）。このフィールドには名前Asset Managerとそのバージョンが含まれます。
 - d このキーを選択します。

- e キーの名前をコピーします（[キー名のコピー] ショートカットメニュー）。

対象となる部分は、次に示すように中括弧の間にあります。例

```
{A79E51C8-4E8E-40CE-A56E-143395D011C1}
```

- f レジストリエディタを終了します。

2 DOSコマンドプロンプトを開きます。

3 次の形式でコマンドを実行します。

- `msiexec.exe /x <レジストリキー> /qn /!*` <ログファイルの完全パス>

例

```
msiexec.exe /x {A79E51C8-4E8E-40CE-A56E-143395D011C1} /qn /!* C:\Temp\log.txt
```

解説：

- ▶ コマンドラインからインストールを実行する [献 44]
- /x: 「msiexec.exe」によりアンインストールを実行します。



注意:

コマンドラインからアンインストールを実行する場合、一部のみをアンインストールすることはできません。

4



注意:

上記のコマンドラインを実行すると、ただちにコマンドプロンプトが表示されます。アンインストール完了の通知はありません。

ログファイル（上記の例では `C:\Temp\log.txt`）の最後の行に *Uninstallation completed successfully* のテキストがあれば、アンインストールは完了しています。

5 Windowsでの設定（Asset Manager Webを除く）

Asset Managerプログラムがインストールされたら、インストールを完了するため、さらにいくつかの手順が必要です。これらの手順は使用する、またはAsset Managerと統合するコンポーネントとアプリケーションにより異なります。

この章では、これらの補足操作について説明します。

DB2データベース用のCコンパイラ

5.10データベースは、SQL言語のストアードプロシージャを使用します。

SQL言語のストアードプロシージャをバージョン8.1以前のDB2で使用することは不可能なため、Cコンパイラが必要です。

 **注意:**

DB2バージョン8.2の場合は、この章を無視してかまいません。

このため、次の操作を行う必要があります。

- 1 データベースサーバ上にCコンパイラをインストールします。

 **ヒント:**

Microsoft Visual Studioバージョン6をお勧めします。これならDB2と容易に統合することが出来ます。

- DB2のインストール先フォルダの「\function\routine\」サブフォルダにある「sr_cpath.bat」ファイルを更新します。これにより、Cコンパイラの位置をDB2サーバに知らせることができます。

例

標準「sr_cpath.bat」ファイルの以下のセクションは、

```
@echo off
REM set VCV6_DRIVE=C:\Microsoft Visual Studio
REM set include=%include%;%VCV6_DRIVE%\VC98\atl\include;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\include;%VCV6_DRIVE%\VC98\include
REM set lib=%lib%;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\lib;%VCV6_DRIVE%\VC98\lib
REM set path=%path%;%VCV6_DRIVE%\Common\Tools\WinNT;%VCV6_DRIVE%\Common\MSDev98\Bin;%VCV6_DRIVE%\Common\Tools;%VCV6_DRIVE%\VC98\bin;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\lib;%VCV6_DRIVE%\VC98\lib
```

以下のセクションに置き換えられています。

```
@echo off
set VCV6_DRIVE=F:\Program Files\Microsoft Visual Studio
set include=%include%;%VCV6_DRIVE%\VC98\atl\include;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\include;%VCV6_DRIVE%\VC98\include
set lib=%lib%;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\lib;%VCV6_DRIVE%\VC98\lib
set path=%path%;%VCV6_DRIVE%\Common\Tools\WinNT;%VCV6_DRIVE%\Common\MSDev98\Bin;%VCV6_DRIVE%\Common\Tools;%VCV6_DRIVE%\VC98\bin;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\lib;%VCV6_DRIVE%\VC98\lib
```

Oracle DLL

Oracleアクセス用のDLLには複数のバージョンがあります。Asset Managerはサポートされているバージョンを動的に読み込もうとします。まずバージョン番号の高いDLLからはじめ、サポートされている古いバージョンへと移行します。

- oraclient10.dll
- oraclient9.dll
- oraclient8.dll

ただし、「am.ini」ファイルに以下のような項目を追加すれば、この順序を変更して特定のDLLファイルを読み込むこともできます。

```
[DLL]
orcl = <xxx>.dll
```


このファイルの場所：▶ 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル [献 55]

メッセージシステム

Windows上でサポートしているメッセージシステムの標準規格

- VIM
- Extended MAPI
- SMTP

注意:

Simple MAPIはサポートされていません。

外部メッセージシステムのインストール

Asset Managerで外部メッセージシステムを正常に機能させるには、次の条件が必要です。

メッセージシステムの標準規格	必要な条件
VIM	システムのPATH環境変数に、「vim32.dll」ファイルが入っているフォルダのパスが指定されている必要があります。 例：Lotus NotesのDLLファイルは一般にNotesによりNotesと同じフォルダにインストールされます。PATHは通っていません。
SMTP	TCP/IPレイヤを必ずインストールします。 SMTPメッセージシステムを正しくインストールした場合には注意します。

Asset Managerから外部メッセージシステムにメッセージを送信するための設定

メッセージシステムの機能を最大限に利用するには、次の作業を行う必要があります。

必要な作業	参考ドキュメント
管理者およびユーザのメッセージ用アドレスを指定する。	『管理』ガイドの「メッセージシステム」の章、「Asset Managerでメッセージシステムを指定する」のセクション
調達、テクニカルサポート、アラームなどで使う「メッセージ」タイプのアクションを作成する。	『AssetManagerの高度な使い方』ガイドの「アクション」の章、「アクションの作成」のセクション、「[メッセージ] タブページに入力する」

必要な作業	参考ドキュメント
調達、テクニカルサポート、アラームなどにリンクされているメッセージを送信するためにAsset Manager Automated Process Managerを設定する。	『管理』ガイドの「 <i>Asset Manager Automated Process Manager</i> 」の章
Asset Manager Automated Process Managerを実行します。	『管理』ガイドの「 <i>Asset Manager Automated Process Manager</i> 」の章
トラブルシューティング	『管理』ガイドの「メッセージシステム」の章、「一般的な接続エラー」のセクション

メッセージシステムの使用方法の詳細については、以下を参照してください。

- 『管理』ガイドの「メッセージシステム」の章
- 『AssetManagerの高度な使い方』ガイドの「メッセージ」の章

Asset Manager Automated Process Manager

Asset Manager Automated Process ManagerはAsset Managerクライアントから独立したプログラムです。調達、在庫、履歴、またはリースのドメインでトリガされるアラーム、メッセージやアクションをモニタしたり、特定のフィールドの値を計算したりします。

これらの処理が正しく行われるために、ユーザはまず、少なくとも1台のコンピュータ上でAsset Manager Automated Process Managerを常時稼動してから、本番データベースに接続する必要があります。

WindowsクライアントやWebクライアントがデータベースに接続するには、以下に挙げる条件が必要です。

- Asset Manager Automated Process Managerが実行中で、データベースに接続している必要があります
- Asset Manager Automated Process Managerデータベースサーバに信号送信 (UpdateToken) モジュールがアクティブであり、少なくとも1週間に1回実行されるようにスケジュールされている必要があります。

Asset Manager Automated Process Managerの詳細については、Asset Manager 『管理』ガイドの「*Asset Manager Automated Process Manager*」の章を参照してください。

Asset Manager Automated Process ManagerのモジュールはHP Connect-Itとそのコネクタを使用し、以下のようなデータの自動インポートを実行します。

- HP Device and Dependency Mapping棚卸アプリケーションによって実行される棚卸。
- 外部アプリケーションからのデータのインポート

このようなモジュールを使用する場合はHP Connect-Itをインストールします。

HP Connect-Itの動作環境、およびインストール方法についてはHP Connect-Itのドキュメントを参照してください。

Asset Manager Automated Process ManagerとHP Connect-Itの統合方法については、Asset Managerの『管理』ガイドの「Asset Manager Automated Process Manager」章の「Asset Manager Automated Process Managerでモニタするモジュールを設定する」を参照してください。

WindowsでAsset Manager Automated Process Managerを導入する

このプログラムを使えるようにするには少なくとも1台のパソコンにWindows 2000かXP ProfessionalかServer 2003をインストールしなければなりません。

Asset Manager Automated Process Managerは以下のいずれかの方法で起動できるようにインストールされます。

- Windowsの【スタート】メニューのショートカットから手動で起動
- サービスとして自動的に起動

ヒント:

Asset Manager Automated Process Managerは、サービスとして起動することをお勧めします。



注意:



Asset Manager Automated Process Managerサービスを適切にインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 1 Windowsでユーザアカウントを作成します（このサービスをインストールする予定のコンピュータで）。
このアカウントには、Asset Manager Automated Process Managerサービスの起動に必要な権限がなければなりません。
このアカウントにリンクする環境で、Asset Manager Automated Process ManagerサービスがインストールされているコンピュータにインストールされたDBMSのクライアント層の使用が許可されている必要があります。
ローカルシステムアカウントは、デフォルトではシステムの環境変数にしかアクセスしないことを念頭に置いてください。
- 2 Asset Manager Automated Process Managerサービスをこのアカウントでインストールします。

デフォルトでは、このプログラムのサービスが自動的に起動するように設定されていますが、これは変更可能です。

コントロールパネルの【サービス】を使うと、コンピュータで使用可能なWindowsサービスを開始、停止、設定できます。

- Windows 2000の場合
 -  ボタン：停止しているサービスを開始します。
 -  ボタン：サービスを停止します。

-  ボタン：サービスを再起動します。
-  ボタン：サービスを中断します。

Asset Manager Automated Process Managerサービスを、Windowsの自動モードで起動するには：

- 1 サービスのウィンドウからAsset Manager Automated Process Managerサービスを選択します。
- 2 右クリックし、ポップアップメニューで [プロパティ] を選択します。
- 3 [スタートアップの種類] フィールドを [自動] にします。



Asset Manager Automated Process Managerの場合は、一度正常に動作することを確認したら、スタートアップモードを [自動] に設定して、Windowsの起動時に自動的に開始させることをお勧めします。



サービスは、デフォルトでWindowsのシステムアカウントを使用します。Asset Manager Automated Process Managerがデータベースに接続できない場合は、[スタートアップ] ボタンをクリックして、データベースにアクセスできるアカウントを使うようにサービスを設定します。

Crystal Reports

Crystal Reportsのインストール、設定と使用については、『Asset Managerの高度な使い方』ガイドの「Crystal Reports」の章を参照してください。

HP Connect-Itとの統合

Asset ManagerにはHP Connect-It完全版と、ドキュメントが付属しています。

必要なHP Connect-Itのバージョン

HP Connect-ItとAsset Managerを統合するには、Asset Managerインストール用CD-ROMに提供されているHP Connect-Itのバージョン、またはそれ以降が必要です。

HP Connect-Itのユーティリティ

Asset Manager Automated Process Managerが自動的に起動する一部のアクションでは、HP Connect-Itが必要になります。例えば、

- Asset Managerデータベースへの接続時にNTセキュリティを使用するために、データベースにNTユーザを追加する場合



警告:

Asset Manager Automated Process ManagerのWindowsバージョンが必要です。

- データベースにNTドメインで宣言されたコンピュータを取得する場合



警告:

Asset Manager Automated Process ManagerのWindowsバージョンが必要です。

- 例えば、棚卸データをHP Device and Dependency Mappingからインポートする場合

HP Connect-Itの動作環境、およびインストール方法についてはHP Connect-Itのドキュメントを参照してください。

Asset Manager Automated Process ManagerとHP Connect-Itの統合方法については、Asset Managerの『管理』ガイドの「Asset Manager Automated Process Manager」章の「Asset Manager Automated Process Managerでモニタするモジュールを設定する」を参照してください。

Get-Answers

Get-Answersの動作環境とインストール方法については、Get-Answersのドキュメントを参照してください。

Get-AnswersとAsset Managerの統合方法については、Asset Managerの『はじめに』ガイドの「Get-Answers」の章を参照してください。

デモ用データベース

Asset Managerはデモ用データベースと共にインストールされます。

このデータベースには次の機能があります。

- Asset Manager付属のライセンスファイル（「license.cfg」）を使って起動できます。

このファイルはソフトウェアの全部または一部へのアクセスを許可します。

- Asset Manager Automated Process ManagerおよびAsset Manager Application Designerによるアクセスも可能です。

デモ用データベースは、「Asset Manager」インストールフォルダの「demo」サブフォルダにコピーされています。

該当ファイルは、「ACDemo51.mdf」です。

 **注意:**

インストール時に、ユーザが「itam」でパスワードが「password」であるインスタンスを使用して、デモ用データベースがMSDEに宣言されます。

データベースへの接続

- 1 MSDEインスタンスがインストール済みであり、該当のWindowsサービス（Asset Manager付属のMSDEインスタンス用の *MSSQL\$ASSETMANAGER*）が開始済みであることを確認します。
- 2 Asset Managerを起動します。
- 3 Asset Managerに【データベースに接続】ウィンドウが表示されます。このウィンドウへ次のように入力します。

フィールド	値
接続	AMDemo51ja
ログイン	Admin
パスワード	空

 **注意:**

他のログインも使用できます。

- 4 デモ用データベースに最初に接続するときに、【ライセンスファイル】ウィンドウが表示されます。
Asset Managerに添付されたライセンスファイル「license.cfg」を選択します。

6 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル

Asset Manager スイートに属するプログラムは、設定ファイルに関連付けられています（「.ini」 および 「.cfg」 の拡張子）。

使用可能な「.ini」 および 「.cfg」 ファイル

使用できる主な「.ini」 および 「.cfg」 ファイルの一覧を次に示します。

表 6.1. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル - 主なファイルの一覧

プログラム (Windowsでは「.exe」または「.dll」を追加し、Unixではおそらく「.so」を追加)	「.ini」または「.cfg」ファイル	説明
Asset Manager am	aamdsk51.ini	ユーザ表示オプション すべてのウィンドウをデフォルト設定に戻す場合は、このファイルを削除します。
	am.ini	Asset Managerユーザオプション
Asset Manager Application Designer amdba	amdba.ini	Asset Manager Application Designerユーザオプション
amdbal	amdbal.ini	ユーザ表示オプション

プログラム (Windowsでは「.exe」または「.dll」を追加し、Unixではおそらく「.so」を追加)	「.ini」または「.cfg」ファイル	説明
Asset Manager Export Tool amexp amexpl	amexp.ini amexpl.ini	Asset Manager Export Toolユーザオプション ユーザ表示オプション
Asset Manager Import Tool amimpl	amimpl.ini	Asset Manager Import Toolユーザオプション ユーザ表示オプション
Asset Manager Script Analyzer amsg	amsg.ini	Asset Manager Script Analyzerユーザオプション ユーザ表示オプション
Asset Manager Automated Process Manager amsrv amsrvl	amsrv.ini amsrv.cfg amsrvl.ini amsrvcf.ini	Asset Manager Automated Process Managerユーザオプション ユーザ表示オプション Webサーバとして稼動するAsset Manager Automated Process Manager用パラメータ
Asset Manager API aamapi51	aamapi51.ini	プログラム ユーザ オプション
次のプログラムのすべて	amdb.ini mail.ini	データベース接続のリスト Asset Managerメッセージシステムの設定

表 6.2. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル - 主なファイルの場所

「.ini」または「.cfg」ファイル	場所
aamdisk51.ini	Windows (NTファミリ) の場合 :
am.ini	「\Documents and Settings\<<Windowsのユーザ名>\Application
amdba.ini	Data\HP\AssetManager\conf」 フォルダ内
am.ini	Windows Vistaの場合 : 「\Users\<<Windowsのユーザ名
amdba.ini	>\AppData\Roaming\HP\AssetManager\conf」
amdbal.ini	フォルダ内
amexp.ini	Unixの場合 : 「~/HP/AssetManager/conf」 フォ
amexpl.ini	ルダ
amimpl.ini	
amsg.ini	
amsrv.ini	
amsrvl.ini	
aamapi51.ini	

「.ini」または「.cfg」ファイル	場所
amsrv.cfg amsrvcf.ini	<p>「amsrv」実行可能ファイルと同じフォルダ</p> <p>注意:</p> <p>旧バージョンのAsset Managerからアップグレードしている場合、「amsrv.cfg」が実行可能ファイル「amsrv」の親フォルダにある場合があります。これでも機能します。</p>
amdb.ini	<p><i>Windows (NT系) の場合:</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ システム接続: 「\<Documents and Settings>\All Users\Application Data\HP\AssetManager\conf」 ■ ユーザ接続: 「\Documents and Settings\<Windowsのユーザ名>\Application Data\HP\AssetManager\conf」フォルダ内 <hr/> <p><i>Windows Vistaの場合:</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ システム接続: 「\ProgramData\HP\AssetManager\conf」★ ■ ユーザ接続: 「\Users\<Windowsのユーザ名>\AppData\Roaming\HP\AssetManager\conf」フォルダ内 <hr/> <p><i>Unixの場合:</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ システム接続: 「/var/opt/HP/AssetManager/conf」フォルダ ■ ユーザ接続: 「~/HP/AssetManager/conf」フォルダ
mail.ini	<i>Unix:</i> 「~」フォルダ

- 1 Windowsクライアントを開始します。
- 2 [Asset Managerのバージョン情報...] ウィンドウを表示します（[ヘルプ/Asset Managerのバージョン情報...] メニュー）。
- 3 [詳細...] ボタンをクリックします。
- 4 表示されるウィンドウに、「.ini」ファイルのインストールフォルダが表示されます。
 - *Asset Manager*接続の定義ファイル（システム）は、「amdb.ini」インストールフォルダ（システム接続）に対応します。
 - *Asset Manager*接続の定義ファイル（ユーザ）は、「amdb.ini」インストールフォルダ（ユーザ接続）に対応します。
 - *INI*は、アプリケーションが使用する「.ini」ファイルのインストールフォルダに対応します。

これらのファイルの一部が含まれるフォルダは、以下を行ってAsset Manager Windows クライアントで確認できます。

「.ini」ファイルを変更する

「.ini」ファイルのエントリは以下のような場合に変更される可能性があります。

- プログラムにより自動的に変更：変更を確定したときまたはプログラムを終了するときに保存されます。後者の場合、**【ファイル／終了】**を使ってアプリケーションを終了しない場合は、変更は保存されません。
- 手動で変更

可能な限り、「.ini」ファイルエントリは、Asset Managerと関連プログラムを使って変更することをお勧めします。

ただし、手動でしか作成および変更できない「.ini」ファイルエントリもあります。

注意:

「.ini」ファイルの手動による変更は複雑な作業なので、十分な知識を持ったユーザのみが行ってください。

以下の表は、変更する「.ini」ファイルのエントリを表しています。これらのエントリは手動でのみ変更できます。

注意:

これらの表は、.iniファイルのエントリの一部だけを紹介しています。すべてのエントリが記載されているわけではありません。この表にないセクションやエントリは、手動で変更してはいけません。

ブール型のエントリの値を「1」または「0」で記しています。「1」や「0」の代わりに「True」や「False」という表現も使えます。

「am.ini」ファイルのエントリ

[OPTION] セクション

表 6.3. [OPTION] セクション

エントリ	説明
bSaveOptionOnExit	Asset Managerの終了時に [オプション] セクションの変更されたエントリを保存しない場合は、これを“0”に設定します。 デフォルトでは、変更内容は保存されます。
CmdComboLines	ツールバーから選択可能なビューおよびアクションのリストに表示する項目数を制限します。
CNtbkTabCfg.bShowFlyby	詳細画面でタブのヒントを表示します。 <ul style="list-style-type: none">■ 0：いいえ■ 1：表示する。
KeyIniFileName	「aamdisk51.ini」ファイルのパスを指定します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">KeyIniFileName=aamdisk51.ini</div> 例 Asset Managerでは、ネットワークドライブに位置する、ファイル「aamdisk51.ini」を使用します。この場合、このファイルを読み取り専用として設定し、ユーザが設定を変更できないようにすることができます。
NewMailLastCheck	Asset Managerメッセージが最後に読み取られた時間。 単位：1970年1月1日午前0時から経過した秒数
opt_bAskForConcurrentModifications	このエントリによって、別のユーザが同じレコードを同時に変更している状況で、ユーザが [変更] ボタンをクリックするとき、Asset Managerが確認ダイアログボックスを表示するかどうかが決まります。 <ul style="list-style-type: none">■ 1：確認ダイアログボックスを表示する。■ 0：確認ダイアログボックスを表示せず、変更をただちに保存する。
opt_bCommitDeletesOneByOne	このオプションは、レコードをまとめて削除するとき役に立ちます。有効な場合、Asset Managerはレコードを次々と消去します（レコードごとに1つのトランザクション）。そうではない場合、Asset Managerは単一のトランザクションで複数のレコードを消去します。 デフォルト値：0
opt_ImportCacheSize	照合更新キーを使ってデータをインポートするときに、インポートパフォーマンスを改善するのに使用するキャッシュメモリのサイズを設定します。 単位：検出されたレコード数 デフォルト値：100

エントリ	説明
StartSunday	週を月曜日から始めるか (StartSunday=0)、日曜日から始めるか (StartSunday=1) を指定します このオプションは、カレンダーで使われます。

[SQL] セクション

表 6.4. [SQL] セクション

エントリ	説明
OracleDLL	Oracleと対話するために読み込むOracle DLLの名前を設定します。

「amsrv.ini」ファイルのエントリ

[OPTION] セクション

表 6.5. [OPTION] セクション

エントリ	説明
MaxRentPerTrans	このエントリは、賃貸料の作成に使われます。 トランザクションごとの賃貸料の最大計算数を設定します。 デフォルト値：200
MaxMsgInList	Asset Manager Automated Process Manager のメイン画面リストに表示される行数を設定します。 デフォルト値：5000
<Module>LastCheck	LastCheckという接尾語を持つ行は、モジュールの最後の実行日に対応します。 Asset Manager Serverの再起動時に次のモジュールの実行を計算することができます。 実行グループ<xxx>が存在しない場合は、プログラムは自動的にこれを実行する必要がないので、WkGroup <xxx> LastCheck行（または、実行グループなしのワークフローチャートがない場合はWkGroupLastCheck行）を削除できます。
ここで、<モジュール>の値は、Alarms、CostCenter、HDAlarms、History、LostVal、Rent、Stats、Stock、TimeZone、UpdateToken、WkGroup、WkGroup <xxx>、WorkflowFinderのいずれか。	

「amsrvcf.ini」ファイルのエントリ

「amsrvcf.ini」ファイルのエントリについては、インストールで作成されるこのファイル自身に記述されています。

「amexp.ini」ファイルのエントリ

[OPTION] セクション

表 6.6. [OPTION] セクション

エントリ	説明
MaxOldDoc	[ファイル] メニューに保持される最近使用したファイルの最大表示数。

「amdb.ini」ファイルのエントリ

Asset Manager接続を記述する各セクションの次のエントリの変更が必要な場合があります。

表 6.7. 「amdb.ini」ファイルのエントリ

エントリ	説明
AmApiDll	Asset Managerの「aamapi51」API DLLへのパスを設定します。 このエントリはHP Connect-ItとOAAで使用されます。
FetchingArraySize	SQLステートメントの実行時に先読みする行数。 デフォルト値：30
OdbcLockingTime	Microsoft SQL Serverデータベース（MSDEを含む）の場合、レコードが別のユーザによってロックされたと見なされるまでの時間を設定します。 単位：秒 デフォルト値：60。

警告:
この値が小さすぎると、処理量の多いサーバで実行する場合にインポートが中断されることがあります。

エントリ	説明
OldStyleCatalog	<p>Oracleデータベースの場合は、このエントリで、デフォルトの「All_Catalog」ビューの代わりに「Tab」ビューを使用することを強制できます。</p> <p>次の2つの値のどちらかに設定できます</p> <ul style="list-style-type: none">■ 1: 「Tab」を使う。■ 0: 「All_Catalog」を使う。

「.ini」ファイルの変更を抑制する

「.ini」ファイルは、オプション変更時にそれぞれのアプリケーションによって自動的に変更されます。

複数の実行可能ファイルまたは実行可能ファイルの複数のインスタンスが同じ「.ini」ファイルに関連付けられている場合、最後に変更を保存した実行可能ファイルの変更内容が書き込まれます。

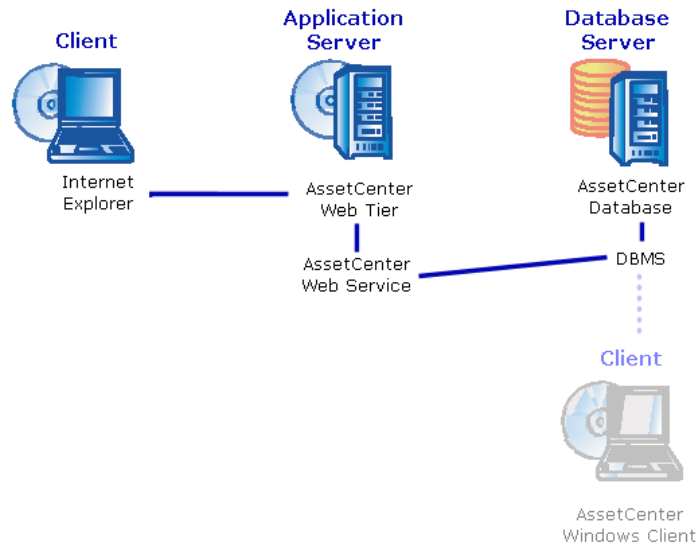
これらの変更を抑制したい場合は、「.ini」を読み取り専用にすることをお勧めします。

これは、特に「aamapi51.ini」ファイルに当てはまります。

7 Asset Manager Webのインストール、設定、削除、および更新

Asset Manager Webアーキテクチャ

図 7.1. Asset Manager Webアーキテクチャ



- Internet Explorerを使ってAsset Managerにアクセスできます。
- Asset Manager Web TierがInternet Explorerから受け取った要求をAsset Manager Web Serviceに送ります。
- Asset Manager Web ServiceがAPIを使ってAsset Managerデータベースを参照または変更します。
- Asset Manager Web ServiceがデータをデータベースからAsset Manager Web Tierに送ります。
- Asset Manager Web Tierが表示するページをInternet Explorerに送ります。
- Asset Manager Web Tier、Asset Manager Web Serviceは別々のアプリケーションサーバをホストとすることができます。
- システムパフォーマンスを改善するために、Asset Manager Web Tierに接続するWebクライアント数の増加とともに、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceのインスタンス数を増加させることができます。
- クライアントとアプリケーションサーバは、HTTPプロトコルを使って通信します。

実用例

警告:

このセクションでは、Tomcat5.0.28をアプリケーションサーバとして実行するローカルテストマシン上にインストールされているAsset Manager Webの例を示します。

この実用例は、Asset Manager Webのパフォーマンスの最適化を目的としたものではありません。

Tomcat 5.0.28とJ2SE v 5.0 JDKは、必ずしも本番モードでサポートされているソフトウェアに対応しているとは限りません。

サポートされているソフトウェアの詳細については、[互換性一覧 \(www.hp.com/go/hpsupport\)](http://www.hp.com/go/hpsupport) を参照してください。

本番環境におけるインストールの詳細については、「▶ [Asset Manager Webのインストール \[献 68\]](#)」を参照してください。

- 1 Internet Explorer 6.0をインストールします。
- 2 Internet Explorer6.0を起動します。
- 3 Internet Explorer 6.0を設定（ [ツール/インターネット オプション] メニューの [セキュリティ] タブ）して、Internet Explorer 6.0で以下の項目を実行できるようにします。
 - JavaScriptを実行
 - ポップアップウィンドウを表示
 - Cookie を受け取る
- 4 Asset ManagerをC:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx フォルダにインストールします。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字のアルファベット（2文字の言語コード）です。（▶ 『インストールとアップグレード』ガイドの「Asset Managerインストール前の注意事項」と「[手動インストール \(GUI\)](#)」の章）。
セットアップタイプは [カスタム] モードを選択します。
次のコンポーネントを選択します。
 - Asset Managerクライアント（Windowsクライアント）
 - Asset Manager API
 - デモ用データベース
 - WebサービスとWebクライアント
- 5 Asset Manager Windowsクライアントを起動します（Windowsメニューの [スタート/プログラム/HP/Asset Manager 5.10 <言語>/Client] ）。
- 6 接続ウィンドウで次のフィールドを入力し、デモ用データベースに接続します。

フィールド	値
接続	AMDemo51ja
ログイン	Admin
パスワード	このフィールドは空白のままにします

- 7 Asset Managerと共に取得したデモ用データベースを使用するためのライセンスを入力します。
- 8 Windowsクライアントを終了します。
- 9 http://java.sun.com/javase/downloads/index_jdk5.jspから、J2SE v 5.0 JDKを「C:\jdk1.5.0_15」フォルダにインストールします。
- 10 J2SE v 5.0 JDKインストールフォルダがポイントされるよう、`JAVA_HOME`システム変数を追加または変更します（Windowsでは、**[スタート/設定/コントロールパネル]**。**[システム]**をダブルクリックし、**[詳細設定]**タブの**[環境変数]** ボタンをクリックして表示される**システム環境変数** 枠）。
使用する値:

C:\jdk1.5.0_15

- 11 <http://tomcat.apache.org/download-55.cgi#5.0.28>から、「Tomcat 5.0.28をC:\Tomcat50」フォルダにインストールします
Windows Service Installer (pgp, md5) をダウンロードします。
次を除き、インストールプログラムがデフォルトで指定したオプションを確定します。
 - インストールフォルダは「C:\Tomcat50」である必要があります。
 - インストールが完了したら、Tomcatを起動させるオプションをオフにします。
- 12 Tomcat設定コンソールを起動します（Windowsでは、**[スタート/プログラム/ Apache Tomcat 5.0/Configure Tomcat]** をクリックします）。
- 13 **[Java]** タブをクリックします。
- 14 次のフィールドに入力します。

フィールド	値
Java Classpath	C:\jdk1.5.0_15\lib\tools.jar;C:\Tomcat50\bin\bootstrap.jar
Java Options	この行を追加します: -Djava.library.path=C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\bin ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字の言語コードです。
Initial memory pool	512（またはお使いのコンピュータに適合する別の値）
Maximum memory pool	1024（またはお使いのコンピュータに適合する別の値）

- 15 Tomcat設定コンソールを閉じます。

- 16 「am-constants-51.jar」と「am-jni-51.jar」ファイルをコピーします（デフォルトの場所は、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10xx\websvc\lib」フォルダで、「xx」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字の文字コードです）。
それをTomcatの「C:\Tomcat50\shared\lib」フォルダに貼り付けます。
- 17 Tomcatを停止します。
- 18 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10xx\webtier\config\AssetManager.xml」ファイルをコピーします。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字の言語コードです。
それを「C:\Tomcat50\conf\catalina\localhost」に貼り付けます。
- 19 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10xx\websvc\config\AssetManagerWebService.xml」ファイルをコピーします。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字の言語コードです。
それを「C:\Tomcat50\conf\catalina\localhost」に貼り付けます。
- 20 Tomcatを起動します。
 - a Tomcat monitoring consoleを起動します（Windowsでは、**[スタート／プログラム／Apache Tomcat 5.0／Monitor Tomcat]** をクリックします）。
 - b Windowsタスクバーの右下にある**[Tomcat]** アイコンを右クリックします。
 - c **[Start service]** メニューを選択します。
 - d 赤い四角マークが緑の右向き三角マークに変わるのを待ちます。
- 21 Asset Manager Web Serviceの導入が成功したことを確認するため、以下の手順でテストを行います。
 - 1 Internet Explorer6.0を起動します。
 - 2 次のURLを表示します。

<http://localhost:8080/AssetManagerWebService>



警告:
テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 Asset Manager Web Serviceが起動するまで、ページの再読み込み、または更新を行わないでください。これには数分かかる場合があります。
- 4 正しく導入されると、URLのページに次のようなヘッダが表示されます。

```
Database
Database: AMDemo51xx
User: Admin
Version: 5.10 - build XXXX
```

 ヒント:

ヘッダの後にエラーが表示された場合は、アプリケーションサーバのメモリ設定を再定義してください。

Tomcat 5.0の例： [Initial memory pool] と [Maximum memory pool] の設定。

22 次のURLを表示します。

 警告:

テキストは大文字と小文字が区別されます。

これにより接続ページが表示されます。

23 次のフィールドに入力します。

フィールド	値
ログイン	Admin
パスワード	パスワードは空欄にしておきます。

Asset Manager Webのインストール

 重要項目:

Asset Manager Webのインストールは、Asset Manager Webの実行に使用するWebサーバとアプリケーションサーバを正しく設定できる技術を持つユーザのみが行ってください。

このガイドでは、本書の目的外となるアプリケーションサーバとWebサーバのインストール方法の説明は行いません。

アプリケーションサーバとWebサーバの使用方法については、使用するサーバの説明書をご覧ください。

前提条件

インストールするコンポーネント

全アプリケーションサーバ

Asset Manager Webをインストールする前に、下のリストのコンポーネントをインストール、設定、および起動する必要があります。手順は各コンポーネントのエディタの指示に従ってください。

- データベースサーバ上にAsset Managerデータベース
- Asset Manager Automated Process ManagerがAsset Managerデータベースにアクセス可能な任意のサーバ上のAsset Manager Automated Process Manager

WindowsクライアントやWebクライアントがデータベースに接続するには、以下に挙げるアクションが必要です。

- Asset Manager Automated Process Managerが実行中で、データベースに接続する必要があります
- Asset Manager Automated Process Managerデータベースサーバに信号送信 (UpdateToken) モジュールがアクティブであり、少なくとも1週間に1回実行されるようにスケジュールされている必要があります。
 - ▶ 『管理』ガイドの「Asset Manager Automated Process Manager」の章、「Asset Manager Automated Process Managerでモニタするモジュールを設定する」のセクション。
- アプリケーションサーバ。

アプリケーションサーバはネットワークインフラストラクチャ (ファイアウォールやプロキシなど) により保護される必要がありますが、インターネットブラウザからの接続は許可する必要があります。

注意:

アプリケーションサーバをホストするコンピュータは、データベースにアクセスできなければなりません。

そのためには、Asset ManagerデータベースのDBMSのクライアントレイヤがコンピュータにインストールされている必要があります。

- Asset Managerインストールプログラムによってアプリケーションサーバをホストするコンピュータ上にインストールできる、次のAsset Managerコンポーネント：
 - WebサービスとWebクライアント
 - Asset Manager API
 - LDAP認証 (この機能を実装する場合)

 **重要項目:**

Webクライアントの表示に使用する言語バージョンのAsset Managerをインストールします。

マルチリンガル設定が可能なAsset Managerデータベースに、この言語が含まれている必要があります。

複数の言語バージョンのWebクライアントをインストールした場合は、同じ数のAsset Manager Webインスタンスをインストールする必要があります (Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tier)。

使用する言語バージョンにデータベースが含まれている場合は、これらのインスタンスは対応するデータベースを指定することができます。

言語によって異なるURLによって、Webクライアントで使用する表示言語を選択することができます。

▶ 『管理』ガイドの「*Asset Manager*データベースの作成、変更、削除」の章、「*Asset Manager* クライアントの表示言語」のセクション

 **重要項目:**

次のコンポーネントのどのバージョンがサポートされているかは、[互換性一覧 \(www.hp.com/go/hpsupport\)](http://www.hp.com/go/hpsupport) を参照してください。

- アプリケーションサーバ
- Webサーバ

- Asset Manager Web TierをUNIXサーバ上にインストールする場合、Java仮想マシン (JVM) がUNIXのグラフィック資源を使用しないように構成する必要があります。

これには、次のパラメータを追加します。

```
-Djava.awt.headless=true
```

- UNIXサーバ上にAsset Manager Web Serviceをインストールしている場合、「.so」ファイルに注意して「??? [献?]」および「??? [献?]」セクションの指示に従っていることを確認してください。

Tomcatがアプリケーションサーバの場合

- 使用するTOMCATと併せて、J2SE Software Development Kit (JDK) をインストールする必要があります。

 **重要項目:**

どのJava Development Kitのバージョンが、ご使用をお考えのアプリケーションサーバと互換性があるかについては、[互換性一覧表](http://www.hp.com/go/hpsupport)

「www.hp.com/go/hpsupport」を参照してください。

Asset Manager Webのパフォーマンスを最大限に引き出すためにTomcatを正しく設定する必要があります。

Tomcatの設定方法については、Tomcatのドキュメントを参照してください。

以下は、3GHzのIntel Quadcoreプロセッサ2個、8GBのRAMを搭載し、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを別々のTomcatインスタンスで実行しているコンピュータ上で、Windows Server 2003を使用してテストした際の設定例です。

- Asset Manager Web Tier使用のTomcat設定を以下に挙げます。

```
<Connector acceptCount="575" connectionTimeout="900000" disableUploadTimeout="true" port="8080" redirectPort="8443" maxThreads="550" minSpareThreads="200" maxSpareThreads="200" maxKeepAliveRequests="1000" keepAliveTimeout="180000" />
<Connector port="8009" protocol="AJP/1.3" protocolHandlerClassName="org.apache.jk.server.JkCoyoteHandler" redirectPort="8443" />
```

- Asset Manager Web Service使用のTomcat設定を以下に挙げます。

```
<Connector port="8081" maxThreads="250" minSpareThreads="49" maxSpareThreads="100" enableLookups="false" redirectPort="8443" acceptCount="745" debug="0" connectionTimeout="1000" disableUploadTimeout="true" maxKeepAliveRequests="15" keepAliveTimeout="100" />
```

- Asset Manager Web Tier使用のJVM設定を以下に挙げます。

```
set JAVA_OPTS=-Xms1500m -Xmx1500M -XX:+UseParNewGC -XX:+UseConcMarkSweepGC -XX:+UseTLAB -XX:SurvivorRatio=2 -XX:+UseBiasedLocking -XX:NewSize=256m -XX:MaxNewSize=256m -server
```

- Asset Manager Web Service使用のJVM設定を以下に挙げます。

```
set JAVA_OPTS=-Xmx600M -Xms600M -XX:+UseTLAB -XX:+UseParNewGC -XX:+UseConcMarkSweepGC -XX:SurvivorRatio=2 -XX:NewSize=128m -XX:MaxNewSize=128m -XX:+UseBiasedLocking -server
```

- 「aamapi51.ini」の設定：

```
[Option]
/Advanced/CnxPoolIdleSize=65
/Advanced/CnxPoolMaxSize=90
/Advanced/CnxPoolMemory=250
...
```

アプリケーションサーバがWebSphere Application Serverの場合

- インストールされているWebSphereアプリケーションサーバと互換性のあるJ2SEバージョンを使用する必要があります。互換性一覧 (www.hp.com/go/hpsoftwaresupport) を参照してください。

アプリケーションサーバがBEA WebLogicの場合

- WebLogicインストールパッケージで、BEAと共に提供されているJRockit、またはSun SDKを使用する必要があります。

BEAは、開発モードのWebLogicドメインではSun SDK、本番モードのWebLogicドメインではJRockitの使用を推奨しています。詳細については、WebLogicサーバの説明書を参照してください。

取得するライセンス

Asset Manager Web経由（Asset Manager Web Tier + Asset Manager Web Service経由）でAsset Managerデータベースにアクセスする場合、特別なライセンスは必要はありません。

Asset Manager Webは、Windowsクライアントと同じ方法で処理されます。

Asset Managerデータベースへの接続に使用される固定アクセス、一時アクセス、または不特定アクセスの数は、Windowsクライアント、またはAsset Manager Web Tierのいずれかを介しているかにかかわらず、Asset Managerライセンスにより設定されます。

ただし、Asset Manager WindowsクライアントおよびAsset Manager Web以外の方法でAsset Managerデータベースにアクセスする場合に、その方法でAsset Manager Web Serviceを使用するのであれば、特定のAsset Manager Web Serviceライセンスを取得する必要があります。

Asset Manager Webのインストールの準備

必要な暗号化パスワードを入手する

インストールの際に、「package.properties」ファイルに、特定のパスワードを入力する必要があります。

- Asset Managerデータベースに接続するユーザに関連付けられたパスワード
- Asset ManagerデータベースのMSSQLユーザ、DB2ユーザ、またはOracleアカウントと関連付けたパスワード

「package.properties」ファイルのパスワード（以下参照）を暗号化された形式にする場合は、これらのパスワードの暗号化されたバージョンを生成する必要があります。

- 1 DOSコマンドプロンプトを開きます。
- 2 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc\password」フォルダに移動します。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Manager言語を表す2文字の言語コードです。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
<J2SE SDKインストールフォルダ (J2SE) >\bin\java.exe -jar am-pwd-cr  
ypt-51.jar <暗号化されていないパスワード>
```

- 4 暗号化したパスワードの値を書き留めておきます。

Webサービスのタグ付け

Asset Manager Webが正常に展開されたことを確認するには、Asset Manager Web Serviceを展開する前にWebサービスにタグ付けします。

▶ 『カスタマイズ』ガイドの「データベースのカスタマイズ」の章、「開発のベストプラクティス/Webサービスのタグ付け」のセクション。

Webサービスに関連付けられた機能ドメインの一貫性の確認

機能ドメインのデータを変更した場合は、Webサービスに影響がないことを確認します。

▶ 『カスタマイズ』ガイドの「データベースのカスタマイズ」の章、「開発のベストプラクティス/Webサービスに関連付けられた機能ドメインの確認」のセクション。

影響がある場合は、[*No such operation 'XXX' (そのような操作はありません 'XXX')*] のようなエラーメッセージが表示されます。

影響がある場合は、Webサービスに再度タグ付ける必要があります。

▶ 『カスタマイズ』ガイドの「データベースのカスタマイズ」の章、「開発のベストプラクティス/Webサービスのタグ付け」のセクション。

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierのインストールの概要

- パフォーマンス上の理由で、本番モードのAsset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierは、2つ別々のアプリケーションサーバにインストールする必要があります。

これらのインスタンスは、同じコンピュータ上に配置できます。

例えば、Tomcatを使用している場合、Tomcatは2つ別々のフォルダにインストールする必要があります。1つはAsset Manager Web Service用、もう1つはAsset Manager Web Tier用です。

- Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierは、次のようにインストールできます。
 - 個別に（テストモード、または本番モード）：「▶ Asset Manager Web Serviceのインストール [献 73]」および「Asset Manager Web Tierのインストール [献 87]」
 - 同時に（テストモードのみ）：「▶ Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには [献 94]」

Asset Manager Web Serviceのインストール

Tomcatがアプリケーションサーバの場合

- 1 Tomcatを停止します。

- 2 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc」フォルダに移動します。
- 3 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc\package.properties」ファイルを編集します。
- 4 次のすべてのパラメータに正しい値を入力します。
 - DB.engine
 - DB.datasource
 - DB.login
 - DB.cache.enabled
 - DB.cache.dir
 - DB.cache.size
 - DB.owner
 - DB.library.path
 - AssetManager.DB.UserLogin
- 5 次のパラメータは、必要に応じて変更、または値を入力します。

このパラメータを

パッケージプロパティのMSSQL、DB2、またはOracleデータベース接続用のパスワードを入力するため、「build.bat」（Windows）または「build.sh」（Unix）スクリプトの実行中にパスワードを入力する必要はありません（以下参照）。

変更する場合：

DB.password

注意：

このパラメータの値は、*encrypt*パラメータに指定された値に応じて変化します。

- *encrypt=false*（暗号化は不要）の場合、パスワードの暗号化された形式を入力します。
- *encrypt=true*（暗号化が必要）の場合、パスワードの暗号化されていない形式を入力します。

「build.bat」または「build.sh」スクリプトを使用すると、Asset Manager Web Serviceの「web.xml」で使用するパスワードが暗号化されます。

<p>このパラメータを</p> <p>「package.properties」ファイルにAsset Manager データベースユーザログイン用のパスワードを保存するため、「build.bat」（Windows）または「build.sh」（Unix）スクリプトの実行中にパスワードを入力する必要はありません（以下参照）。</p>	<p>変更する場合：</p> <p>AssetManager.DB.UserPwd</p> <p>注意：</p> <p>このパラメータの値は、<i>encrypt</i>パラメータに指定された値に応じて変化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>encrypt=false</i>（暗号化は不要）の場合、パスワードの暗号化された形式を入力します。 ■ <i>encrypt=true</i>（暗号化が必要）の場合、パスワードの暗号化されていない形式を入力します。 <p>「build.bat」または「build.sh」スクリプトを使用すると、Asset Manager Web Serviceの「web.xml」で使用するパスワードが暗号化されます。</p>
<p>変換された「.war」の基盤として、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc」フォルダにあるものとは別の「.war」ファイルを変更します。</p>	<p>war</p> <p>注意：</p> <p>「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。</p>
<p>「build.bat」または「build.sh」の実行中に、必要とされるすべてのパスワードを入力するように求められるため、「package.properties」ファイルにパスワードを保存する必要はありません（以下参照）。</p>	<p>promptForPwd=true</p>
<p>暗号化されていないパスワードを「package.properties」ファイル、または「build.bat」または「build.sh」で求められた場合（<i>promptForPwd</i>の値により）のいずれかで入力します。</p>	<p>encrypt=true</p>
<p>展開スクリプトで要求される「.jar」ファイルの場所を変更します。</p> <p>デフォルトで、スクリプトでは「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy\lib」にあるファイルが使用されます。</p>	<p>ant.tasks.dir</p> <p>注意：</p> <p>「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。</p>

- 6 必要に応じて、『カスタマイズ』ガイドの「Webクライアントのカスタマイズ」、「Webクライアントのデフォルト動作の変更」の章に記載されているようにAsset Manager Web Serviceパラメータのいずれかを変更します。
- 7 その他のパラメータは変更しないでください。
- 8 「package.properties」を保存します。
- 9 Windowsの場合：DOSコマンドプロンプトを開きます。
Unixの場合：コマンドシェルを開きます。

- 10 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy」フォルダに移動します。
- 11 次のコマンドラインを実行します : build.bat <「package.properties」へのパス> (Windowsの場合) または build.sh <「package.properties」へのパス> (Unixの場合)。
- 12 TomcatのJavaプロパティを入力します。

プロパティ	値
Java Classpath	完全パスを次の行に追加します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ J2SE SDKの「tools.jar」 (デフォルトの格納場所は、J2SE SDKインストールフォルダの「lib」サブフォルダです) パスは同一行に書き、セミコロン「;」で区切ります。
Java Options	「amjni51.dll」ファイルが入っているフォルダへの完全パスを追加します (デフォルトの場所は、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\bin」フォルダで、「xx」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字の言語コードです)。 パラメータの例 : -Djava.library.path=C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\bin

- 13 「am-constants-51.jar」ファイルと「am-jni-51.jar」ファイルをコピーします (デフォルトの場所は、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc\lib」フォルダ)。
 それをTomcatの「shared\lib」フォルダに貼り付けます。
- 14 Tomcatを起動します。
- 15 正しく導入されたかどうかをテストします。
 例えば、次のような方法があります。
 - 1 Internet Explorerを起動します。
 - 2 次のURLを表示します。

http://<Name or IP address of the Asset Manager Web Service server>:
 <Asset Manager Web Service port>/AssetManagerWebService

例 : http://localhost:9080/AssetManagerWebService



警告:

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 Asset Manager Web Serviceが起動するまで、ページの再読み込み、または更新を行わないでください。これには数分かかる場合があります。
- 4 正しく導入されると、URLのページに次のようなヘッダが表示されます。

Database
 Base: AMDemo51xx

```
User: Admin
Version: 5.10 - build xxxx
Dll path: C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\bin\aaapi51.dll
```

ヒント:

ヘッダの後にエラーが表示された場合、またはまったく表示されない場合は、アプリケーションサーバのメモリ設定が正しくない可能性があります。

Tomcat 5.0の例： [Initial memory pool] と [Maximum memory pool] の設定。

アプリケーションサーバがWebSphere Application Serverの場合

ここでは、Asset Manager Web ServiceをAsset Manager Web Tierとは別にインストールする方法について説明します。

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには：▶ [Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには \[献 94\]](#)

- 1 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc」 フォルダに移動します。
- 2 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc\package.properties」 ファイルを編集します。
- 3 次のすべてのパラメータに正しい値を入力します。
 - DB.engine
 - DB.datasource
 - DB.login
 - DB.cache.enabled
 - DB.cache.dir
 - DB.cache.size
 - DB.owner
 - DB.library.path
 - AssetManager.DB.UserLogin
 - war.deployment=*false*
 - ear.deployment=*true*
 - ear : .earへの絶対パス、または相対パスは、「build.bat」または「build.sh」によって作成されます（デフォルトで、「AssetManager-webservice.ear」という名前になります）。

**注意:**

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

4 次のパラメータは、必要に応じて変更、または値を入力します。

このパラメータを

パッケージプロパティのMSSQL、DB2、またはOracleデータベース接続用のパスワードを入力するため、「build.bat」(Windows)または「build.sh」(Unix)スクリプトの実行中にパスワードを入力する必要はありません(以下参照)。

変更する場合:

DB.password

注意:

このパラメータの値は、*encrypt*パラメータに指定された値に応じて変化します。

- *encrypt=false* (暗号化は不要) の場合、パスワードの暗号化された形式を入力します。
- *encrypt=true* (暗号化が必要) の場合、パスワードの暗号化されていない形式を入力します。

「build.bat」または「build.sh」スクリプトを使用すると、Asset Manager Web Serviceの「web.xml」で使用するパスワードが暗号化されます。

パッケージプロパティでAsset Managerデータベースユーザログイン用のパスワードを入力するため、「build.bat」(Windows)または「build.sh」(Unix)スクリプトの実行中にパスワードを入力する必要はありません(以下参照)。

AssetManager.DB.UserPwd

注意:

このパラメータの値は、*encrypt*パラメータに指定された値に応じて変化します。

- *encrypt=false* (暗号化は不要) の場合、パスワードの暗号化された形式を入力します。
- *encrypt=true* (暗号化が必要) の場合、パスワードの暗号化されていない形式を入力します。

「build.bat」または「build.sh」スクリプトを使用すると、Asset Manager Web Serviceの「web.xml」で使用するパスワードが暗号化されます。

「AssetManager-webservice.ear」ファイルが生成される場合、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc」フォルダにあるものは別の.warファイルを使用します。

war

注意:

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

このパラメータを	変更する場合：
「build.bat」または「build.sh」の実行中に、必要とされるすべてのパスワードを入力するように求められるため、「package.properties」ファイルにパスワードを保存する必要はありません（以下参照）。	promptForPwd=true
暗号化されていないパスワードを「package.properties」ファイル、または「build.bat」または「build.sh」で求められた場合（promptForPwdの値により）のいずれかで求められた場合、暗号化されていないパスワードを入力します。	encrypt=true
展開スクリプトで要求される「jar」ファイルの場所を変更します。 デフォルトで、スクリプトでは「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy\lib」にあるファイルが使用されます。	ant.tasks.dir 注意: 「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。
Java classpathへの追加のファイル参照を作成します。（これらのファイルは、addl.filesパラメータで、「AssetManager-webservice.ear」に追加する必要があります）。	manifest.classpath
「addl.files」によって参照されるすべてのファイルが見つかるように、基盤となるディレクトリを変更します。	addl.files.root 注意: 「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。
変更されたAsset Manager Web Serviceの「.war」に加えて、「AssetManager-webservice.ear」に追加するファイルのリストを変更します（warパラメータ参照）。	addl.files

- 5 必要に応じて、『カスタマイズ』ガイドの「Webクライアントのカスタマイズ」、「Webクライアントのデフォルト動作の変更」の章に記載されているようにAsset Manager Web Serviceパラメータのいずれかを変更します。
- 6 その他のパラメータは変更しないでください。
- 7 「package.properties」を保存します。
- 8 Windowsの場合：DOSコマンドプロンプトを開きます。
Unixの場合：コマンドシェルを開きます。
- 9 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy」フォルダに移動します。
- 10 次のコマンドラインを実行します：build.bat <「package.properties」へのパス>（Windowsの場合）またはbuild.sh <「package.properties」へのパス>（Unixの場合）。
- 11 WebSphere Application Serverを起動します。
- 12 Internet Explorerを起動します。

13 次のURLを開きます。

```
http://<Asset Manager Web ServiceサーバのIPアドレス名>:<WebSphereポート>/admin
```

例：http://127.0.0.1:9060/admin

14 ユーザIDを入力します。

15 左のメニューで [**Environment (環境) / Shared Libraries (共有ライブラリ)**] をクリックします。

16 [**新規作成**] ボタンをクリックします。

17 次のフィールドに入力します。

パラメータ	値
名前	am-native-lib
詳細	Asset Manager ネイティブライブラリ
Classpath	.
ローカル・パス	「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\bin」など、Asset Managerのバイナリディレクトリへのパス。ここで、「xx」は、ご使用のAsset Managerの言語を表す2文字の言語コードです。

18 [**OK**] をクリックします。

19 メッセージのフレームで [**保存**] リンクをクリックします。

20 左のメニューで [**アプリケーション / 新規アプリケーションのインストール**] を選択します。

21 以下のフィールドに値を入力します。

パラメータ	値
ローカル・パス	「AssetManager-webservice.ear」ファイルへのパスです。

22 [**Show me all installation options and parameters (すべてのインストールオプションとパラメータを表示)**] オプションを使用して、インストールを開始します。

23 [**次へ**] ボタンをクリックします。

24 [**次へ**] ボタンをクリックして、インストールを開始します。

25 手順4 (共有ライブラリ) で、アプリケーションのテーブルから、**[AssetManagerWebService]** (URI : META-INF/application.xml) を選択します。

26 [**Reference shared libraries (参照共有ライブラリ)**] ボタンをクリックします。

27 新規ライブラリ : **[am-native-lib]** を選択します。

28 手順7で、Asset Manager Webモジュールの情報が表示されます。

- 29 手順8でインストールオプションの概要が表示されます。
- 30 **【完了】** ボタンをクリックして、インストールを開始します。
- 31 すべてが正常に機能すると、トレースウィンドウにAssetManagerWebServiceインストールが正常に実行されたことを示すメッセージが表示されます。
- 32 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。
- 33 ナビゲーションバーで、**【サーバ/アプリケーションサーバ】** を選択します。
- 34 右側の枠のサーバを選択します。
- 35 **【アプリケーション】** セクションの **【Installed application (インストールされたアプリケーション)】** をクリックします。
- 36 アプリケーションの一覧から、**【AssetManagerWebService】** を選択します。
- 37 **【Properties detail (プロパティの詳細)】** で **【アプリケーション・バイナリー】** をクリックします。
- 38 **【場所】** (フルパス) フィールドの値に着目します。
この値には、`$(APP_INSTALL_ROOT)/<セルの名前>`というフォーマットが使用されます。
この値は、あとで **【JVM Classpath】** フィールドに入力する際に必要になります。
- 39 ナビゲーションバーで、**【サーバ/アプリケーションサーバ】** を選択します。
- 40 右側のパネルにあるサーバを選択します。
- 41 中央のページで、**【Javaおよびプロセス管理 (Java and Process Management)】** のすぐ下にある **【プロセス定義】** オプションを選択します。
- 42 次のページで **【Java 仮想マシン】** を選択します。
- 43 新規ページで、以下の要領で **【Classpath】** フィールドに入力します。

値 `-Djava.library.path=$(APP_INSTALL_ROOT)/<セルの名前>/AssetManager-webservice.ear`

注意:

`$(APP_INSTALL_ROOT)/<セルの名前>/AssetManager-webservice.ear` は、前のステップで着目した **【アプリケーション・バイナリー】** フィールドの値です。

例: `-Djava.library.path=$(APP_INSTALL_ROOT)/PC1Node01/AssetManager-webservice.ear`

変更の保存

- 1 [適用] をクリックします。
これによりページが再読み込みされます。
- 2 ページ上部にある [メッセージ] ボックスにある [保管] をクリックします。
- 3 次のページで [保管] をクリックします。

-
- 44 WebSphere Application Serverを停止します（ [スタート/プログラム/IBM WebSphere/サーバの停止] メニュー）。
 - 45 WebSphere Application Serverを起動します（ [スタート/プログラム/IBM WebSphere/サーバの始動] メニュー）。
 - 46 正しく導入されたかどうかをテストします。

例えば、次のような方法があります。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 次のURLを表示します。

```
http://<Name or IP address of the Asset Manager Web Service server>:  
<Asset Manager Web Service port>/AssetManagerWebService
```

例 : http://localhost:9080/AssetManagerWebService



警告:

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 Asset Manager Web Serviceが起動するまで、ページの再読み込み、または更新を行わないでください。これには数分かかる場合があります。
- 4 正しく導入されると、URLのページに次のようなヘッダが表示されます。

```
Database  
Base: AMDemo51xx  
User: Admin  
Version: 5.10 - build xxxx  
Dll path: C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\bin\aaapi5  
1.dll
```



ヒント:

ヘッダの後にエラーが表示された場合は、アプリケーションサーバのメモリ設定が原因の可能性あります。

Tomcat 5.0.0の例 : [Initial memory pool] と [Maximum memory pool] の設定。

アプリケーションサーバがBEA WebLogicの場合

ここでは、Asset Manager Web ServiceをAsset Manager Web Tierとは別にインストールする方法について説明します。

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには：▶ [Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには \[献 94\]](#)

- 1 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc」フォルダに移動します。
- 2 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc\package.properties」ファイルを編集します。
- 3 次のすべてのパラメータに正しい値を入力します。
 - DB.engine
 - DB.datasource
 - DB.login
 - DB.cache.enabled
 - DB.cache.dir
 - DB.cache.size
 - DB.owner
 - DB.library.path
 - AssetManager.DB.UserLogin
 - war.deployment=*false*
 - ear.deployment=*true*
 - ear : 「.ear」への絶対パス、または相対パスは、「build.bat」または「build.sh」によって作成されます（デフォルトで、「AssetManager-webservice.ear」という名前になります）。



注意:

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

- 4 次のパラメータは、必要に応じて変更、または値を入力します。

<p>このパラメータを パッケージプロパティのMSSQL、DB2、またはOracleデータベース接続用のパスワードを入力するため、「build.bat」（Windows）または「build.sh」（Unix）スクリプトの実行中にパスワードを入力する必要はありません（以下参照）。</p>	<p>変更する場合： DB.password</p>
	<p>注意： このパラメータの値は、<i>encrypt</i>パラメータに指定された値に応じて変化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>encrypt=false</i>（暗号化は不要）の場合、パスワードの暗号化された形式を入力します。 ■ <i>encrypt=true</i>（暗号化が必要）の場合、パスワードの暗号化されていない形式を入力します。 「build.bat」または「build.sh」スクリプトを使用すると、Asset Manager Web Serviceの「web.xml」ファイルで使用するパスワードが暗号化されます。
<p>パッケージプロパティでAsset Managerデータベースユーザログイン用のパスワードを入力するため、「build.bat」（Windows）または「build.sh」（Unix）スクリプトの実行中にパスワードを入力する必要はありません（以下参照）。</p>	<p>AssetManager.DB.UserPwd</p>
	<p>注意： このパラメータの値は、<i>encrypt</i>パラメータに指定された値に応じて変化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>encrypt=false</i>（暗号化は不要）の場合、パスワードの暗号化された形式を入力します。 ■ <i>encrypt=true</i>（暗号化が必要）の場合、パスワードの暗号化されていない形式を入力します。 「build.bat」または「build.sh」スクリプトを使用すると、Asset Manager Web Serviceの「web.xml」ファイルで使用するパスワードが暗号化されます。
<p>作成された「AssetManager-webservice.ear」ファイルの基盤として、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc」フォルダにあるものとは別の「.war」ファイルを使用します。</p>	<p>war</p>
<p>「build.bat」または「build.sh」の実行中に、必要とされるすべてのパスワードを入力するように求められるため、「package.properties」ファイルにパスワードを保存する必要はありません（以下参照）。</p>	<p>注意： 「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。</p>
<p>暗号化されていないパスワードを「package.properties」ファイル、または「build.bat」または「build.sh」で求められた場合（<i>promptForPwd</i>の値により）のいずれかで求められた場合、暗号化されていないパスワードを入力します。</p>	<p><i>promptForPwd=true</i></p> <p><i>encrypt=true</i></p>

<p>このパラメータを 展開スクリプトで要求される「.jar」ファイルの場所を変更します。 デフォルトで、スクリプトでは「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy\lib」にあるファイルが使用されます。</p>	<p>変更する場合： ant.tasks.dir</p> <p>注意： 「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。</p>
<p><i>Java classpath</i>への追加のファイル参照を作成します。（これらのファイルは、<i>addl.files</i>パラメータで、「AssetManager-webservice.ear」ファイルに追加する必要があります）。</p>	<p>manifest.classpath</p>
<p>「<i>addl.files</i>」によって参照されるすべてのファイルが見つかるように、基盤となるディレクトリを変更します。</p>	<p>addl.files.root</p> <p>注意： 「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。</p>
<p>変更されたAsset Manager Web Serviceの.warに加えて、「AssetManager-webservice.ear」に追加するファイルのリストを変更します（<i>war</i>パラメータ参照）。</p>	<p>addl.files</p>

- 5 必要に応じて、『カスタマイズ』ガイドの「Webクライアントのカスタマイズ」、「Webクライアントのデフォルト動作の変更」の章に記載されているようにAsset Manager Web Serviceパラメータのいずれかを変更します。
- 6 その他のパラメータは変更しないでください。
- 7 「package.properties」ファイルを保存します。
- 8 Windowsの場合：DOSコマンドプロンプトを開きます。
Unixの場合：コマンドシェルを開きます。
- 9 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy」フォルダに移動します。
- 10 次のコマンドラインを実行します：build.bat <「package.properties」へのパス>（Windowsの場合）またはbuild.sh <「package.properties」へのパス>（Unixの場合）。
- 11 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\bin」フォルダにある「aamapi51.dll」ファイルと「amjni51.dll」ファイルをコピーします。
- 12 これらのファイルを「\<jdk_weblogic>\jre\bin」フォルダにコピーします。ここで<jdk_weblogic>は、Asset Manager Web ServiceをインストールするWebLogicドメインに関連付けられたJDKフォルダへのパスに対応します。
例：C:\bea\jrockit90_150_06\jre\bin。
- 13 Asset Manager Web ServiceをインストールするWebLogicドメインの「config」フォルダに移動します（例：「C:\bear_projects\domains<ドメイン名>\config」）。
- 14 「config.xml」ファイルを編集します。

15 次のサブエントリ、

```
<enforce-valid-basic-auth-credentials>false</enforce-valid-basic-auth-credentials>
```

を<security-configuration>エントリの最後に追加します。

16 「config.xml」ファイルで行った変更を保存します。

17 Asset Manager Web ServiceをインストールするWebLogicドメインのWebLogic ServerドメインのAdmin Serverを起動します。

18 Internet Explorerを起動します。

19 次のURLを開きます。

```
http://<Asset Manager Web ServiceサーバのIPアドレス名>:<WebLogicドメインポート>/console
```

例：http://localhost:7001/console

WebLogic管理コンソールが表示されます。

20 ユーザIDを入力します。

21 メニューの左側で：

1 **[Lock & Edit (ロックと編集)]** (**[Change Center (変更センタ)]** フレーム) をクリックします。

2 **[Deployments (導入)]** リンクをクリックします (**[Domain Structure (ドメイン構造)]** フレーム)

22 メイン画面の **[Control (コントロール)]** タブで **[インストール]** ボタンをクリックします。

アプリケーションのインストールウィザードが開始します。

23 「AssetManager-webservice.ear」ファイルを選択し、**[次へ]** をクリックします。

24 **[Install this deployment as an application (この展開をアプリケーションとしてインストール)]** オプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。

25 ウィザードの他のページに入力し、**[完了]** をクリックして確定します。

26 メニューの左側で：

1 **[Activate changes (変更を有効化)]** (**[Change Center (変更センタ)]** フレーム) をクリックします。

2 **[Deployments (導入)]** リンクをクリックします (**[Domain Structure (ドメイン構造)]** フレーム)

27 メイン画面の **[Control (コントロール)]** タブで、Asset Manager Web Serviceの導入に対応するチェックボックスを選択します。インストールが正常に完了すると、アプリケーションのステータスは **[Prepared (準備済)]** に変わります。

- 28 **[Start/ Servicing all requests** (開始/すべての依頼を有効にする)] メニューを選択します。
アプリケーションのアクティブ化ウィザードが開始します。
- 29 **[はい]** をクリックしてアクティブ化を確認します。アプリケーションのステータスが **[アクティブ]** に変わります。
- 30 正しく導入されたかどうかをテストします。
例えば、次のような方法があります。
- 1 Internet Explorerを開きます。
 - 2 次のURLを表示します。

```
http://<Name or IP address of the Asset Manager Web Service server>:  
<Asset Manager Web Service port>/AssetManagerWebService
```

例 : http://localhost:7001/AssetManagerWebService



警告:

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 Asset Manager Web Serviceが起動するまで、ページの再読み込み、または更新を行わないでください。これには数分かかる場合があります。
- 4 正しく導入されると、URLのページに次のようなヘッダが表示されます。

```
Database  
Base: AMDemo51xx  
User: Admin  
Version: 5.10 - build xxxx  
Dll path: C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\bin\aamapi5  
1.dll
```

Asset Manager Web Tierのインストール

Tomcatがアプリケーションサーバの場合

- 1 開始している場合にはTomcatを停止します。
- 2 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\webtier」フォルダに移動します。
- 3 「package.properties」ファイルを編集します。
- 4 次のすべてのパラメータに正しい値を入力します。
 - AssetManager.WS.EndPoint : Asset Manager Web ServiceのURL
 - AssetManager.WS.Version : Asset Manager Web Serviceで使用するタグ
- 5 次のパラメータは、必要に応じて変更、または値を入力します。

このパラメータを

変換された「.war」の基盤として、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websvc」フォルダにあるものとは別の「.war」ファイルを変更します。

変更する場合：

war

注意:

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

展開スクリプトで要求される「.jar」ファイルの場所を変更します。

ant.tasks.dir

注意:

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

デフォルトで、スクリプトでは「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy\lib」にあるファイルが使用されます。

- 6 必要に応じて、『カスタマイズ』ガイドの「Webクライアントのカスタマイズ」、「Webクライアントのデフォルト動作の変更」の章に記載されているようにAsset Manager Web Tierパラメータのいずれかを変更します。
- 7 その他のパラメータは変更しないでください。
- 8 「package.properties」ファイルを保存します。
- 9 Windowsの場合：DOSコマンドプロンプトを開きます。
Unixの場合：コマンドシェルを開きます。
- 10 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy」フォルダに移動します。
- 11 次のコマンドラインを実行します：build.bat <「package.properties」へのパス> (Windowsの場合) またはbuild.sh <「package.properties」へのパス> (Unixの場合)。
- 12 Tomcatを起動します。
- 13 正しく導入されたかどうかをテストします。
例えば、次のような方法があります。
 - 1 Internet Explorerを起動します。
 - 2 次のURLを表示します。

http://<Asset Manager Web Serviceサーバ名>:<Asset Manager Web Serviceポート>/AssetManager

例：http://localhost:8080/AssetManager



警告:

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 正しく導入されると、上記のURLで接続ページが表示されます。

アプリケーションサーバがWebSphere Application Serverの場合

ここでは、Asset Manager Web TierをAsset Manager Web Serviceとは別にインストールする方法について説明します。

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには：▶ [Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには](#) [献 94]

- 1 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\webtier」フォルダに移動します。
- 2 「package.properties」ファイルを編集します。
- 3 次のすべてのパラメータに正しい値を入力します。
 - AssetManager.WS.EndPoint : Asset Manager Web ServiceのURL
 - AssetManager.WS.Version : Asset Manager Web Serviceで使用するタグ
 - war.deployment=*false*
 - ear.deployment=*true*
 - ear : .earファイルへの絶対パス、または相対パスは、「build.bat」または「build.sh」によって作成されます（デフォルトで、「AssetManager.ear」という名前になります）。



注意:

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

- combination.ear=*false*
- 4 次のパラメータは、必要に応じて変更、または値を入力します。

このパラメータを

作成された「AssetManager.ear」ファイルの基盤として、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\webtier」フォルダにあるものとは別の.warファイルを使用します。

変更する場合：

war

注意:

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

展開スクリプトで要求される「jar」ファイルの場所を変更します。

デフォルトで、スクリプトでは「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy\lib」にあるファイルが使用されます。

ant.tasks.dir

注意:

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

- 5 必要に応じて、『カスタマイズ』ガイドの「Webクライアントのカスタマイズ」、「Webクライアントのデフォルト動作の変更」の章に記載されているようにAsset Manager Web Tierパラメータのいずれかを変更します。
- 6 その他のパラメータは変更しないでください。
- 7 「package.properties」ファイルを保存します。

- 8 Windowsの場合：DOSコマンドプロンプトを開きます。
Unixの場合：コマンドシェルを開きます。
- 9 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy」フォルダに移動します。
- 10 次のコマンドラインを実行します：build.bat <「package.properties」へのパス>（Windowsの場合）またはbuild.sh <「package.properties」へのパス>（Unixの場合）。
- 11 WebSphere Application Server管理コンソールを開きます。
- 12 [アプリケーション/新規アプリケーションのインストール] に移動します。
次のデータを入力します。

このパラメータを	変更する場合：
パスの指定	「AssetManager.ear」ファイルへのパスを入力します。
例:	C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websphere\AssetManager.ear

- 13 インストール画面に移動します。
- 14 手順8でインストールオプションの概要が表示されます。
- 15 [完了] ボタンをクリックして、インストールを開始します。
- 16 すべてが正常に機能すると、トレースウィンドウにAssetManagerWebServiceインストールが正常に実行されたことを示すメッセージが表示されます。
- 17 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。
- 18 左のナビゲーションバーで [アプリケーション/エンタープライズ・アプリケーション] セクションに移動します。
- 19 [Asset Manager] をクリックします。
- 20 Click [Class loading and update detection (クラスの読み込みと更新の検出)] をクリックします。
- 21 次のオプションを選択します。
 - Reload classes when application are updated
 - Classes loaded with application class loader first
 - Single class loader for application
- 22 [Polling interval for update files (更新ファイルの間隔のポーリング)] に1秒と入力します。
- 23 変更を確認して保存します。
- 24 WebSphere Application Serverを停止します（[スタート/プログラム/IBM WebSphere/サーバの停止] メニュー）。
- 25 WebSphere Application Serverを起動します（[スタート/プログラム/IBM WebSphere/サーバの始動] メニュー）。

26 正しく導入されたかどうかをテストします。

例えば、次のような方法があります。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 次のURLを表示します。

```
http://<Asset Manager Web Serviceサーバ名>:<Asset Manager Web Serviceポート>/AssetManager
```

例 : http://localhost:9060/AssetManager



警告:

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 正しく導入されると、上記のURLで接続ページが表示されます。

アプリケーションサーバがBEA Weblogicの場合

ここでは、Asset Manager Web TierをAsset Manager Web Serviceとは別にインストールする方法について説明します。

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには : ▶ [Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには \[献 94\]](#)

- 1 C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\webtierフォルダに移動します。
- 2 「package.properties」 ファイルを編集します。
- 3 次のすべてのパラメータに正しい値を入力します。
 - AssetManager.WS.EndPoint : Asset Manager Web ServiceのURL
 - AssetManager.WS.Version : Asset Manager Web Serviceで使用するタグ
 - war.deployment=false
 - ear.deployment=true
 - ear : 「.ear」 ファイルへの絶対パス、または相対パスは、「build.bat」または「build.sh」によって作成されます (デフォルトで、「AssetManager.ear」という名前になります) 。



注意:

「build.xml」 ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

- combination.ear=false
- 4 次のパラメータは、必要に応じて変更、または値を入力します。

このパラメータを

作成された「AssetManager.ear」ファイルの基盤として、「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\webtier」フォルダにあるものとは別の.warファイルを使用します。

変更する場合：

war

注意:

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

展開スクリプトで要求される「.jar」ファイルの場所を変更します。

ant.tasks.dir

注意:

「build.xml」ファイルへの絶対パス、または相対パスを使用できます。

デフォルトで、スクリプトでは「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy\lib」にあるファイルが使用されます。

- 5 必要に応じて、『カスタマイズ』ガイドの「Webクライアントのカスタマイズ」、「Webクライアントのデフォルト動作の変更」の章に記載されているようにAsset Manager Web Tierパラメータのいずれかを変更します。
- 6 その他のパラメータは変更しないでください。
- 7 「package.properties」ファイルを保存します。
- 8 Windowsの場合：DOSコマンドプロンプトを開きます。
Unixの場合：コマンドシェルを開きます。
- 9 「C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\deploy」フォルダに移動します。
- 10 次のコマンドラインを実行します：build.bat <「package.properties」へのパス> (Windowsの場合) またはbuild.sh <「package.properties」へのパス> (Unixの場合)。
- 11 Asset Manager Web TierをインストールするWebLogicドメインのWebLogic ServerドメインのAdmin Serverを起動します。
- 12 Internet Explorerを開きます。
- 13 次のURLを開きます。

```
http://<Asset Manager Web TierサーバのIPアドレスの名前>:<WebLogicドメインポート>/console
```

例：http://localhost:7001/console

WebLogic管理コンソールが表示されます。

- 14 ユーザIDを入力します。
- 15 メニューの左側で：
 - 1 **[Lock & Edit (ロックと編集)]** (**[Change Center (変更センタ)]** フレーム) をクリックします。
 - 2 **[Deployments (導入)]** リンクをクリックします (**[Domain Structure (ドメイン構造)]** フレーム)
- 16 メイン画面の **[Control (コントロール)]** タブで **[インストール]** ボタンをクリックします。

- 17 アプリケーションのインストールウィザードが開始します。
- 18 「AssetManager.ear」ファイルを選択し、[次へ] をクリックします。
- 19 [Install this deployment as an application (この展開をアプリケーションとしてインストール)] オプションを選択して、[次へ] をクリックします。
- 20 ウィザードの他のページに入力し、[完了] をクリックして確定します。
- 21 メニューの左側で：
 - 1 [Activate changes (変更を有効化)] ([Change Center (変更センター)] フレーム) をクリックします。
 - 2 [Deployments (導入)] リンクをクリックします ([Domain Structure (ドメイン構造)] フレーム)
- 22 メイン画面の [Control (コントロール)] タブで、Asset Manager Web Tier の導入に対応するチェックボックスを選択します。インストールが正常に完了すると、アプリケーションのステータスは [Prepared (準備済)] に変わります。
- 23 [Start/ Servicing all requests (開始/すべての依頼を有効にする)] メニューを選択します。
アプリケーションのアクティブ化ウィザードが開始します。
- 24 [はい] をクリックしてアクティブ化を確認します。
アプリケーションのステータスが [アクティブ] に変わります。
- 25 正しく導入されたかどうかをテストします。
例えば、次のような方法があります。
 - 1 Internet Explorerを開きます。
 - 2 次のURLを表示します。

```
http://<Asset Manager Web Serviceサーバ名>:<Asset Manager Web Serviceポート>/AssetManager
```

例 : http://localhost:7001/AssetManager



警告:

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 正しく導入されると、上記のURLで接続ページが表示されます。

Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierを同時にインストールするには

重要項目:

このインストール方法はテストモードのみで使用可能です。本番モードでは使用できません。本番モードではパフォーマンス上の理由で、Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierは、2つ別々のアプリケーションサーバにインストールする必要があります。

これは、WebSphere Application ServerまたはBEA WebLogicを使用している場合のみ可能です。Tomcatを使用している場合はできません。

以下では、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを個別にインストールする方法について説明します。

単一の「.ear」を作成して、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceを同時に同じサーバにインストールすることもできます。

これを行うには、

- 1 以下で説明するように、Asset Manager Web TierとAsset Manager Web Serviceの「package.properties」ファイルのパラメータを変更します。
 - アプリケーションサーバがWebSphere Application Serverの場合 [献 77]
 - アプリケーションサーバがWebSphere Application Serverの場合 [献 89]
- 2 Asset Manager Web Tierの「package.properties」ファイルのcombination.earパラメータが、trueに設定されていることを確認します。
- 3 次の章の次の文章以降の説明に従って、Asset Manager Web Tierの導入プロセスを続行します。次のコマンドラインを実行します：`build.bat` <「package.properties」へのパス>（Windowsの場合）または`build.sh` <「package.properties」へのパス>（Unixの場合）。
 - BEA WebLogic：「▶ アプリケーションサーバがBEA WebLogicの場合 [献 91]」

WebSphere Application Serverの場合は、次の操作を行います。

- 1 WebSphere Application Server管理コンソールを開きます。
- 2 WebSphere Application Serverを起動します。
- 3 Internet Explorerを開きます。
- 4 次のURLを開きます。

```
http://<Asset Manager Web ServiceサーバのIPアドレス名>:<WebSphere Application Serverポート>/admin
```

例：http://127.0.0.1:9060/admin

- 5 ユーザIDを入力します。
- 6 左のメニューで [Environment（環境） / Shared Libraries（共有ライブラリ）] をクリックします。

- 7 **【新規作成】** ボタンをクリックします。
- 8 以下のフィールドに値を入力します。

パラメータ	市場価格
名前	am-native-lib
詳細	Asset Manager ネイティブライブラリ
Classpath	.
ローカル・パス	Asset Managerのバイナリディレクトリへのパス。例：C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\bin

- 9 **【OK】** をクリックします。
- 10 メッセージのフレームで **【保存】** リンクをクリックします。
- 11 **【アプリケーション/新規アプリケーションのインストール】** に移動します。
次のデータを入力します。

このパラメータを	変更する場合
ローカル・パス	「AssetManager.war」ファイルへのパスを指定します。
例:	C:\Program Files\HP\Asset Manager 5.10 xx\websphere\AssetManager.ear

- 12 **【Show me all installation options and parameters (すべてのインストールオプションとパラメータを表示)】** オプションを選択します。
- 13 手順4までのインストール画面を移動します。
- 14 手順4 (共有ライブラリ) で、テーブルから、**【Asset Manager】** アプリケーション (URI : META-INF/application.xml) を選択します。
- 15 **【Reference shared libraries (参照共有ライブラリ)】** ボタンをクリックします。
- 16 新規ライブラリ : **【am-native-lib】** を選択します。
- 17 手順9でインストールオプションの概要が表示されます。
- 18 **【完了】** ボタンをクリックして、インストールを開始します。
- 19 すべてが正常に機能すると、トレースウィンドウにAsset Managerインストールが正常に実行されたことを示すメッセージが表示されます。
- 20 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。
- 21 ナビゲーションバーで、**【サーバ/アプリケーションサーバ】** を選択します。
- 22 右側の枠のサーバを選択します。
- 23 **【アプリケーション】** セクションの **【Installed application (インストールされたアプリケーション)】** をクリックします。
- 24 アプリケーションの一覧から、**【Asset Manager】** を選択します。

- 25 **[Properties detail (プロパティの詳細)]** で **[アプリケーション・バイナリー]** をクリックします。
- 26 **[場所]** (フルパス) フィールドの値に着目します。
この値には、`$(APP_INSTALL_ROOT)/<セルの名前>`というフォーマットが使用されます。
この値は、あとで **[JVM Classpath]** フィールドに入力する際に必要になります。
- 27 ナビゲーションバーで、**[サーバ/アプリケーションサーバ]** を選択します。
- 28 右側の枠のサーバを選択します。
- 29 中央のページで、**[Javaおよびプロセス管理 (Java and Process Management)]** のすぐ下にある **[プロセス定義]** オプションを選択します。
- 30 次のページで **[Java 仮想マシン]** を選択します。
- 31 新規ページで、以下の要領で **[Classpath]** フィールドに入力します。

市場価格

```
-Djava.library.path=$(APP_INSTALL_ROOT)/<セルの名前>/AssetManager.ear
```

注意:

`$(APP_INSTALL_ROOT)/<セルの名前>/AssetManager.ear`は、前のステップで着目した **[アプリケーション・バイナリー]** フィールドの値です。

例:
変更の保存

```
-Djava.library.path=$(APP_INSTALL_ROOT)/PC1Node01/AssetManager.ear
```

- 1 **[適用]** をクリックします。
これによりページが再読み込みされます。
- 2 ページ上部にある **[メッセージ]** ボックスにある **[保管]** をクリックします。
- 3 次のページで **[保管]** ボタンをクリックします。

- 32 ナビゲーションバーで、**[アプリケーション/エンタープライズ・アプリケーション]** を選択します。
- 33 **[Asset Manager]** をクリックします。
- 34 **[モジュール]** セクションの **[Manage Modules (モジュールの管理)]** をクリックします。
- 35 **[AssetManagerWeb]** をクリックします。
- 36 **[Class Loader Order (クラスローダーの順番)]** フィールドの値を **[Classes loaded with application class loader first (アプリケーションクラスローダーと共に読み込まれたクラスを最初にする)]** に設定します。
- 37 **[OK]** をクリックします。
- 38 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。

- 39 WebSphere Application Serverを停止します（[スタート/プログラム/IBM WebSphere/サーバーの停止] メニュー）。
- 40 WebSphere Application Serverを起動します（[スタート/プログラム/IBM WebSphere/サーバーの始動] メニュー）。
- 41 正しく導入されたかどうかをテストします。
例えば、次のような方法があります。
 - 1 Internet Explorerを開きます。
 - 2 次のURLを表示します。

```
http://<Asset Manager Web Serviceサーバ名>:<Asset Manager Web Serviceポート>/AssetManager
```

例：http://localhost:9060/AssetManager



警告:

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 正しく導入されると、上記のURLで接続ページが表示されます。

Asset Manager Webの設定

- ▶ 『カスタマイズ』ガイドの「Webクライアントのカスタマイズ」、「Webクライアントのデフォルト動作の変更」の章を参照してください。
- ▶ 『管理』ガイドの「データベースへのアクセスコントロール」の章、「Asset Managerデータベースへのユーザ認証を管理する」のセクション。

Internet Explorerを使ったAsset Managerへのアクセス

- ▶ 『はじめに』ガイドの「Asset Managerを初めて使用する」の章、「Asset Managerの開始/Webクライアント」のセクション

Asset Manager Webの最適化

警告:

このセクションは、これからお使いになるアプリケーションとWebサーバのガイドの代替となるものではありません。

上記のガイドとユーザの知識と経験を組み合わせることで、アプリケーションサーバとWebサーバを最適な方法でインストール、設定することが出来るようになります。

このセクションでは、いくつかのヒントを提供しますが、完全な一覧ではありませんのでご注意ください。

重要項目:

ホワイトペーパー『*AssetManager Web Client: Performance Hints and Problems Diagnosis*』を読むことをお勧めします。

このホワイトペーパーは、「ACWPerformancesHintsAndProblemDiagnosis.pdf」という名前のAcrobat PDFファイルで提供されています。

ホワイトペーパーと、ホワイトペーパーの入手場所の詳細については、▶『リリースノート』の「関連のあるドキュメントおよび互換対応表」の章、「ドキュメント/ホワイトペーパー」を参照してください。

Tomcatのログファイル

Tomcatで非常に詳細なログファイルが生成されるように設定すると、数千もの無意味な行がログ記録されてしまいます。

Asset Manager Webのパフォーマンスを低下させるだけです。

この問題を回避するためのTomcatの設定例：

- 1 Tomcatの「webapps」フォルダに移動します。
- 2 必要に応じて「AssetManager」フォルダを削除します。
- 3 webapps\AssetManager.war_buildフォルダ内の「AssetManager.war」ファイルを圧縮解除します。
- 4 新規設定ファイルを作成して、「log4j.properties」（場所は「AssetManager.war_build\WEB_INF\classes」フォルダ）と置換します。
例：log4jnew.properties
- 5 「web.xml」のlog.propertiesエントリ（場所はAssetManager.war_build\WEB_INF）を変更して、新しい「log4jnew.properties」ファイルを参照するようにします。
- 6 新しいファイル、「log4jnew.properties」を開きます。

- 7 致命的エラーのみログを作成する設定を入力します。

例：

```
log4j.rootLogger=FATAL, A1
log4j.appender.A1=org.apache.log4j.ConsoleAppender
log4j.appender.A1.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.A1.layout.ConversionPattern=%d{ABSOLUTE} %-5p %c{1}
: %m%n
log4j.logger.org.apache=FATAL
```

▶ 『Apache log4j』ドキュメント

- 8 Tomcatの「webapps\AssetManager.war_build」フォルダを参照します。
- 9 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 10 これらのファイルとフォルダを「webapps\AssetManager.war_build\AssetManager.war」ファイルに圧縮します。
- 11 ファイルをコピーします。
- 12 それを「webapps」フォルダに貼り付けます（以前のファイルに上書きします）。
- 13 「webapps\AssetManager.war_build」フォルダを削除します。

Tomcatによって生成されるページの表示にかかる時間

Internet ExplorerでWebクライアントのページを表示する場合、初めてアクセスするページの表示にしばらく時間がかかることがあります。

これは次の理由によるものです。

Tomcatの「work」フォルダ内で記述されていないページをユーザが要求すると（例えば場所のリストなど）、Asset Manager Web Tierは「.jsp」ファイルと、この「.jsp」ファイルからコンパイルされる「.class」ファイルを生成します。表示するページはこれらのファイルによって記述されます。

この動作にはしばらく時間がかかります。

Tomcatの「work」フォルダ内ですでに記述されているページをユーザが要求した場合、対応する「.jsp」ファイルと「.class」ファイルをAsset Manager Web Tierが再度作成するのは、Asset Managerデータベースの構造内でページの記述が変更されている場合だけです。

ページが変更されていないければ、Internet Explorerですぐに表示されます。

重要項目:

ページの表示速度を高めるために、シャットダウンの際に「work」フォルダ内の「.jsp」ファイルと「.class」ファイルを保持するように、Tomcatを設定することを推奨します。

方法については、Tomcatのドキュメントを参照してください。

ネットワークパフォーマンス

Webクライアントは、256kbitsネットワークで、400msのping（200msのネットワークレイテンシ）で正常にテストを行えました。

さまざまな読み込み時間の一覧を以下に挙げます。

アクション	読み込み対象
一覧の表示	40KB
詳細の表示	複雑さに応じて50から100KBの間（従業員や部門であれば50KB、ポートフォリオ品目であれば90KBなど）
一覧での選択	1.2 MB
例、ポートフォリオ品目の詳細にある以下のフィールドとリンクを変更します。	
■ 【割り当て】（seAssignment）	
■ 【ユーザ】（User）	
■ 【場所】（Location）	
■ 【責任者】（Supervisor）	
発注の作成	530KB（6KBをクライアントからサーバへ。残りはサーバからクライアントへ）
ポートフォリオ品目の作成、および一覧を参照することによる場所、ユーザ、責任者の選択	1.8 MB（10KBをクライアントからサーバへ。23往復）

Asset Manager Webのアンインストール

Tomcatがアプリケーションサーバの場合

Asset Manager Web ServiceまたはAsset Manager Web Tierが導入されているTomcatの各インスタンスに対して：

- 1 導入されたAsset Manager Web ServiceまたはAsset Manager Web Tierを削除します。
- 2 Tomcatを停止します。

警告:

Tomcatを停止しなければ、Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web Tierのいくつかのファイルを削除することができません。

これはTomcatの既知のエラーです。

▶ <http://tomcat.apache.org/faq/windows.html#lock>

- 3 Tomcatの「work」および「webapps」フォルダで、「AssetManager」および「AssetManagerWebService」フォルダを手動で削除します。

問題

Tomcatで実行されるAsset Manager Web Tier

問題

Tomcatが正しく停止しない。

TomcatがWebクライアントを開始できない。

解決方法

- 1 Tomcatを停止します
 - 2 Tomcatのインストールフォルダにある
「work\Catalina\localhost\AssetManager」サブフォルダを削除します
 - 3 Tomcatを開始します
- 動作しない場合、Asset Manager Web Tierを再導入してください。

Asset Manager Webの更新

Asset Manager Webの更新前に、Asset Manager Web 5.00をAsset Manager 5.10と併用できるのは、Asset Manager Web Webサービスのタグ付きバージョン（*HEAD*バージョンではない）を使用している場合のみです。

しかし、Asset Manager Web 5.10による改善のメリットは得られません。

Asset Manager Webを更新するには：

- 1 Asset Manager Webを削除します。
 - ▶ Asset Manager Webのアンインストール [献 100].
- 2 Asset Manager Web 5.10をインストールします。
 - ▶ Asset Manager Webのインストール [献 68].

8 パフォーマンスの問題

概要

Asset Managerのパフォーマンスは以下のような様々な要因に左右されます。

- DBMS :
 - ハードウェア
 - 設定
この作業は重要ですが、非常に扱いにくいものであるため、実行するにはデータベース管理者のスキルが必要になります。DBMSのパラメータ設定によってはAsset Managerの性能が倍増することもまれではありません。特に、データベースサーバに割り当てるRAM容量に注意を払うことが大切です。
 - DBMSの能力（Asset Managerとの運用性）とミドルウェアの能力（複数の行を1つのネットワークパケットとして取得するなどの高度な機能のサポート）
- サーバのハードウェアパフォーマンス：プロセッサ速度、RAM、ディスクのサブシステム（ディスク、コントローラボード、これらのシステム管理、プロセッサ数など）、テーブルとインデックスで別のストレージデバイスを使用。
- クライアントのハードウェアパフォーマンス：プロセッサ速度、RAM、グラフィックパフォーマンス
- 帯域幅とネットワークの遅延時間
- データベースに格納されているレコード数

Asset Managerのパフォーマンスを最適化する方法については、『*Tuning*（最適化）』ガイドを参照してください。

低速ネットワーク、高速ネットワークと広域ネットワーク（WAN）の調整

詳細については、『管理』ガイドの「WANネットワークにおける*Asset Manager*の最適化」の章を参照してください。

外部アプリケーションを使って*Asset Manager*データベースのレコードをロックする

外部ツールによっては、レコードを参照している最中でもレコードをロックすることがあります。

これは、*Asset Manager*の性能に悪影響を及ぼします。レコードは、なるべくロックしないようにしてください。

例えば、Microsoft SQL Serverでは、ダーティリード（*dirty read*）でアクセスする方が適しています。

索引

- .msi (ファイル) , 40
- アクセス制限, 31
- アップグレード
 - コンピュータのアップグレード, 22
 - バージョン4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0x
手順, 27
- アンインストール
 - Asset Managerクライアント
 - 自動アンインストール, 45
 - 手動アンインストール - Windows, 39
 - アンインストール - Windowsでの自動化, 40
 - アンチウィルス - 競合, 35
 - インストール
 - Windows, 35-39
 - 事前の作業, 35
 - 手動インストール, 38
 - 自動化 - Windows, 40
 - カウンタ, 25
 - キャッシュ, 32
 - クライアント/サーバ - Windowsへのインストール, 37
 - コンピュータのアップグレード
 - 準備, 22
 - サポートされるDBMS, 17
 - サポートされるオペレーティングシステム
 - クライアント, 15
 - データベースサーバ, 15
 - サポートされる動作環境, 15
 - ストアドプロシージャ - DB2, 47
 - ディスク容量
 - 最小限の動作環境 - Windows, 16
 - 推奨される動作環境 - Windows, 16
 - デモ用データベース
 - インストール - Windows, 53
 - パスワード, 53
 - ログイン, 53
 - データベース
 - コピー, 26
 - DBMSツール, 26
 - 従来のバックアップ - 問題点, 26
 - 最終処理, 29
 - 手動による調整, 25
 - 整合性 - 検証, 28 , 24
 - 接続不可, 52
 - 内容を変更する, 10
 - 保全性, 10
 - データベースの修復 (メニュー) , 24 , 24
 - データベースを更新 (メニュー) , 27
 - データベース構造 - 変更, 10
 - データベース保全性, 10

ネットワーク - パフォーマンス, 104
パスワード - デモ用データベース, 53
パフォーマンス, 103
フィールドのヘルプ, 29
メッセージ, 49
メッセージシステム (参考 メッセージ)
メモリ
 最小限の動作環境 - Windows, 16
 推奨される動作環境 - Windows, 16
ユーザ権限, 31
ユーザ (フィールド), 27
レコードの整合性のチェック (オプション),
28, 24, 24
レコード - ロック, 104
レポート (参考 Crystal Reports)
ログイン - デモ用データベース, 53
ワークフロー (モジュール), 25
解析のみ, 28
開く (メニュー), 24, 24
既存のデータベースを開く (メニュー), 27
機能権限, 31
最小限の動作環境 - Windows, 16
周辺プログラムの統合, 14
修復 (オプション), 25, 24
所有者 (フィールド), 27
整合性 - 検証, 28
接続, 32
設定
 Windows, 47-53
調達 (モジュール), 25
変換速度, 23

A

am.ini, 48
am51.db, 53
amdb.ini, 38
Asset Manager
 コンポーネント (参考 Asset Managerの
 パッケージ)
 モジュール (参考 Asset Managerモジュール)
AssetManager.msi, 40
Asset Manager Application Designer
 データベース整合性 - 検証, 28, 24

Asset Manager Automated Process Manager,
31

HP Connect-It - 統合, 50
サービスとしての実行, 51
データベースに接続する
 Windows, 52
はじめに, 50
実装
 Windows, 51
設定
 Windows, 50

Asset Manager Web, 33

Asset Managerクライアント

言語, 38
高速インストール - Windows, 38
自動アンインストール - Windows, 45

Asset Managerコンポーネント, 13

Asset Managerの周辺プログラム, 14

Asset Managerプログラム - 更新
手順, 32

Asset Managerモジュール, 14
autorun.exe, 38

C

cfg (ファイル)
一覧, 55

config (フォルダ), 30

CPU

最小限の動作環境 - Windows, 16
推奨される動作環境 - Windows, 16

Crystal Reports

Asset Managerとの統合, 52

Windowsへのインストール, 36

Crystal Reports ランタイム - Windowsへの
インストール, 36

D

Dirty read, 104

G

gbbase.xml, 30
Get-Answers, 53
Get-It, 33
Get-Resources, 33

H

- HP Connect-It, 33
 - Asset Manager Automated Process Manager - 統合, 50
 - Asset Manager - 統合, 52
- HP Connect-Itシナリオ, 33

I

- ini (ファイル)
 - 一覧, 55
 - 変更, 58

M

- MAPI (参考 メッセージ)
- MSDE, 36
 - Windows 2000、XP、Server 2003, 37
 - サービスを開始する, 37

N

- NTユーザ, 53

O

- Oracle, 35
- Oracle DLL - バージョン, 48
- Oracleクライアント層 - Windowsへのインストール, 35
- Orca, 40

S

- sdu.log, 28
- SMTP (参考 メッセージ)
- sr_cpath.bat, 48

U

- up_GetCounterVal (ストアドプロシージャ), 29, 25
- upgrade.lst, 34

V

- VIM (参考 メッセージ)

W

- Windowsへのインストール, 36

